



my point of view

ライカカメラジャパン株式会社

東京都千代田区有楽町1-7-1

Tel 03-5221-9501 / Fax 03-5221-9502

info@leica-camera.co.jp

www.leica-camera.co.jp

Heine/Lenz/Zizka 09/06/CEGW/B





# Leica M System

The fascination of the moment – analog and digital

ライカ M8 new

ライカ M7

ライカ MP

ライカ アラカルト



1	“24 x 36” Leica M photography portfolio フォトギャラリー
9	ライカ Mシステム
21	ライカ M8 new
29	サイモン・ウィートリー、ライカ M8を使う
35	ライカ M7
41	ライカ MP
45	ライカ アラカルト
50	ライカ M7 標準セット
51	ライカ Mレンズ
56	アクセサリー
62	ライカ M8 テクニカルデータ
64	ライカ M7/MP テクニカルデータ
67	“24 x 36” Leica M photography portfolio フォトギャラリー

## “24 x 36” Leica M photography portfolio

ライカM型で撮影した写真ははっきりそれと分かります。見る人の心の琴線に触れ、魅了し、驚きを与える力を秘めた、独特の撮影スタイルが表れているのです。1925年、ライツ社は、オスカー・バルナックの開発したカメラで24 x 36mmの小型フィルムフォーマットを規定しました。以来報道写真家たちは、目立たず素早く撮影できるライカM型を使用して、世界に対する思いを形にしてきました。「24 x 36」は、M型を使用する写真家たちの写真展のタイトルです。意識の視覚的表現、あるテーマの徹底した追求、日常生活の原点にあるメッセージなど、ライカのカメラを通して表現した作品の一部をこのカタログでもご紹介しています。

ライカのウェブサイト[www.leica-camera.com](http://www.leica-camera.com)では、新しいデジタルカメラ、ライカM8によって進化している写真をご覧くださいことができます。ライカM8で撮影された写真は常に新しい発見をもたらすことでしょう。



**PHILIPPE BORDAS (フランス)**

“L’Afrique à Poings Nus”シリーズより 1988-2000年

作品のタイトル「こぶしをむき出しにしたアフリカ」がすべてを物語っています。大衆に根ざしたスポーツ、社会的成功の手段としてのスポーツです。フィリップ・ボルダスは、何年もの間、ケニアの若いボクサーやセネガルのレスラーを見守り、インタビューや写真撮影を行って、その人物像を描いてきました。その結果できあがったものは、古典的なルポルタージュではありません。白黒の様式的手法とカラーをミックスし、日記のようなメモに加え手紙や小さなスケッチをも盛り込んだ、真の叙事詩です。ボルダスの同名写真集とパリで開催された写真展も、このテーマに対する彼の情熱を堂々と示すものとなっています。ドキュメンタリー写真における新たな概念の見事な例であるといえるでしょう。

使用カメラ：ライカ M4-P、ライカ M6 / 使用レンズ：ライカ ズミクロンM f2/35mm ASPH.、ライカ ズミクロンM f2/50mm

フィリップ・ボルダス氏提供



**JOHAN WILLNER** (ストックホルム在住)

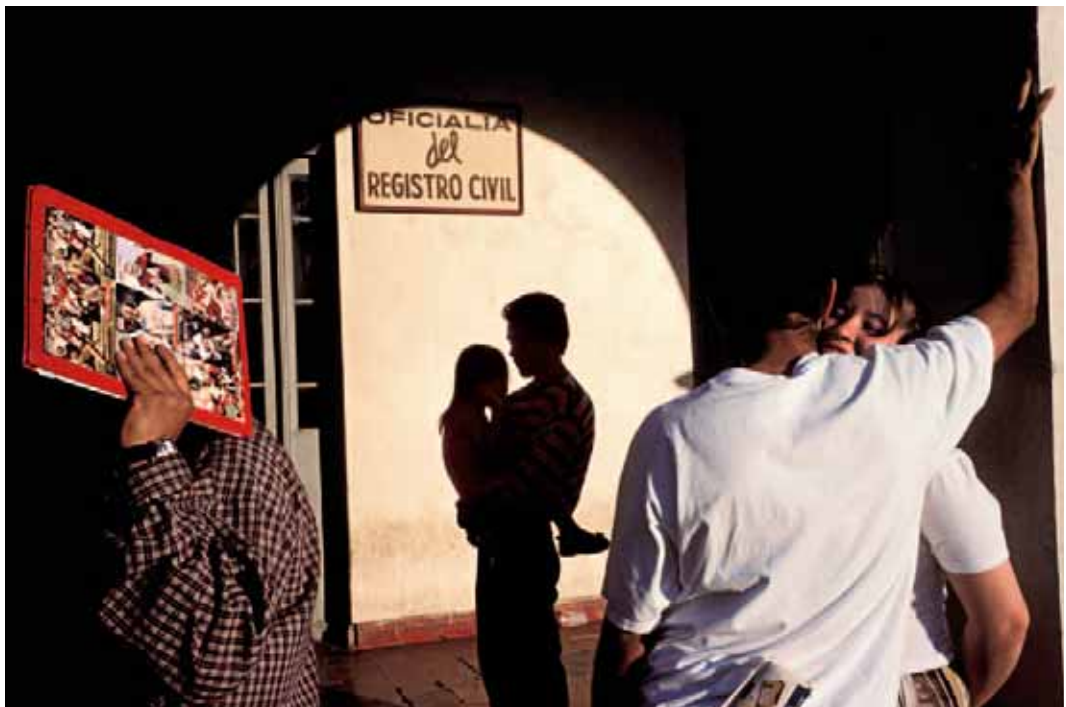
“Augustum”より

ヨハン・ウィルナーのような若い写真家たちは、写真という媒体の歴史を熟知しているという点で、他と一線を画しています。彼らの頭の中には、明確なロールモデル - とても個人的で献身的な自分自身の写真芸術を創出する方法を示してくれた写真家 - がいます。ヨハン・ウィルナーの場合は、ロバート・フランクがそうでした。ウィルナーは、その撮像以上に、写真技術を資料とする考え方を改めさせ、複雑でありながら知的で主観的な視覚的解説に置き換えようとするフランクの努力を見習おうとしました。ウィルナーは、1995-96年に、ニューヨークのICPで学んでいます。彼の作品は、ストックホルム、ルンド、オルレアンの写真展に出品され、2004年にはマドリードの作品レビューPhoto Españaで、最も注目すべき逸材の一人となりました。

使用カメラ：ライカ M4-P / 使用レンズ：ライカ ズミクロンM f2/35mm

ヨハン・ウィルナー氏提供





**ALEX WEBB** ( 1952年サンフランシスコ生まれ、ニューヨーク市ブルックリン在住 )

Outskirts of Tijuana 1995年

アレックス・ウェブの写真には、いつも「熱」があります。彼の写真集のタイトルもそれを証明しています。最初の写真集の“Hot Light” ( 1986年 )、2冊目の“Under A Grudging Sun” ( 1989年 ) というタイトル。そして3冊目の“From The Sunshine State” ( 1996年 )。正確に言うと、ウェブにとって重要なのは、熱ではなく南部の光特有の性質でした。その濃い影との交錯こそ、彼の強い色調の、時に徹底的に写実的な表現の素材なのです。1979年よりマグナム・フォトの正会員であるウェブは、1970年代に普及したカラーへの新鮮な探究心によって、メンバーの間でも知られていました。2000年のライカ・メダル・オブ・エクセレンスを含む数々の賞を受賞しており、その都度、楽々と雑誌 ( GEO、Life、Stern ) とギャラリーの溝を埋める、彼の写真技術の素晴らしさが再確認されています。

使用カメラ：ライカ M6 / 使用レンズ：ライカ エルマリットM f2.8/28mm、ライカ ズミクロンM f2/35mm ASPH.

アレックス・ウェブ氏/マグナム・フォト提供



**RAGNAR AXELSSON** ( 1958年アイスランド生まれ、アイスランド在住 )

“Vanishing Lifestyles”シリーズより 1988-2003年

ラグナル・アクセルソンは現在アイスランドの有力日刊紙 “Morgunbladid” の写真記者をしています。しかし同時に、長期のドキュメンタリープロジェクトにも取り組んでおり、このプロジェクトで2001年にライカ・オスカー・バルナック賞の特別賞を受賞しました。アクセルソンは、アイスランドでまさに滅びようとしている生活様式に非常に興味を抱いており、それらを写真にとらえる仕事を自ら買って出たのです。新聞の仕事でアイスランドやグリーンランドやフェロー諸島の各地を訪れる際は必ず、衰退しつつある文化を代表する個々人やグループを探し出します。一律的なグローバル化と現代社会の調和から取り残された世界に向けるアクセルソンの繊細で明晰でありつつ温かみのある視線は、彼固有の作品のベースとなっています。

使用カメラ：ライカ M4-P、ライカ M6 / 使用レンズ：ライカ エルマリートM f2.8/28mm、ライカ ズミクロンM f2/50mm ASPH.

ラグナル・アクセルソン氏提供





**ANDREA HOYER** ( 1967年ゲッティンゲン生まれ、ベルリン、モスクワ、ニューヨーク在住 )

“Russia, Kazakhstan, Uzbekistan and the Caucasus”シリーズより 1998-2002年

アンドレア・ホイヤーは、2003年の写真界で一番のサプライズであったと言ってよいでしょう。その年のオスカー・バルナック賞を受賞して写真愛好者の心をとらえるまで、誰も、何年も黙々と白黒の作品を取り続けてきた、この芸術家の名前を聞いたことはなかったのです。ホイヤーのテーマは旧ソビエト連邦の終焉でしたが、それは、新たな貧困層と成金マフィアの中であって社会動向をとらえるルポルタージュではありませんでした。代わりに、ホイヤーは、おそらくはアンドレイ・タルコフスキーの映画で馴染みの深い雰囲気を見視覚化することに興味を持ったのです。彼女の撮像は、明瞭でありながら複雑、写実的でありながらさまざまな要素をあわせもっています。それは、カルティエ＝ブレッソンの作品を想起させる、超現実的とも言える瞬間をも含みます。

使用カメラ：ライカ M6 / 使用レンズ：24、28、35mm

アンドレア・ホイヤー氏提供



**MATIAS COSTA** (1973年ブエノスアイレス生まれ、マドリッド在住)

“Water Culture”シリーズより 2003年

マティアス・コスタは、1999年、世界に名だたるPhoto Españaにおいて、ルワンダのストリートチルドレンを写した報道写真で、初めて世界の人々にその作品を呈示しました。彼が傑出した才能の持ち主で、政治的なメッセージと現代的なイメージを融合する術を心得ていることは一目瞭然でした。その後、コスタは、垂涎の的であるヴヴェイ（スイス）のフェスティバルでのフォトジャーナリズム賞をはじめ、数々の重要な賞を受賞しています。現時点で未発表の彼の最新作（今回はカラー作品）では、1000を超える数の温泉に育まれたハンガリーの入浴文化が取り上げられています。写真撮影の点からいえば、これは実に困難なテーマでした。自然光を利用してこっそりと撮影しなければならないことが多かったからです、ライカM型が活躍する典型的な場面であったとも言えます。

使用カメラ：ライカ M6 TTL / 使用レンズ：ライカ エルマリットM f2.8/24mm ASPH.、ライカ ズミクロンM f2/35mm  
マティアス・コスタ氏提供



**瞬間の魅力 - アナログそしてデジタル** 写真とは、光を用いて世界のイメージをとらえる芸術です。アナログであろうとデジタルであろうと、この基本的な写真撮影の原理は変わりません。1925年に、ライツ社は世界初の35mmカメラを世に送り出し成功を収めました。以来ライカ（ライツのカメラ）は、妥協を許さぬ光学・機械性能と、非常に小さなカメラによる革命的な写真技術の代名詞となっています。1954年にライカM3が発売されて以来、世界の一流写真家たちは、ライカM型に頼るようになりました。レンジファインダーによって、撮影者は情勢の展開を予測することができます。そしてライカMが即座に、控え目に、そして静かに決定的な瞬間をとらえるのです。アレックス・ウェブの写真（4ページ）は、ライカMが、急速に変化する場面においてさえ、いかに正しい瞬間をとらえることができるかを証明しています。また、マティアス・コスタの写真（7ページ）を見れば、真の光景を写し出すためどれほど慎重にライカMが使われ得るかが分かります。アナログのMPおよびM7モデルと並び、今、デジタルライカM8がサクセスストーリーを継承しています。このカメラは、本質に集中しながらも、妥協を許さぬ品質と世界最高のレンズとの互換性を誇る、真正のM型写真技術とデジタル画像技術を組み合わせたプロのためのツールなのです。

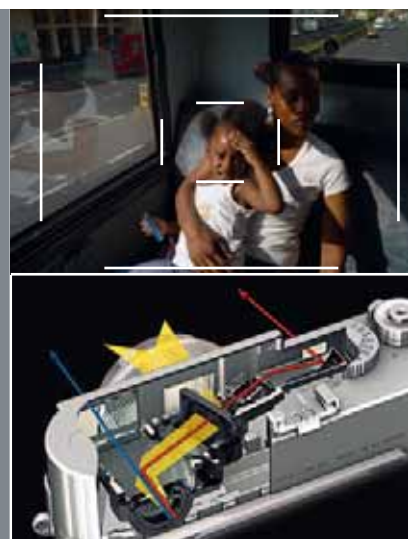




0.72

**決定的瞬間にさらに近く** レンジファインダーシステムを用いると、日常生活における自然な写真を撮ることができます。写真家は被写体と一体になり、レンジファインダーを用いてシーンや雰囲気や瞬間など自分のとらえたいものをフレームに収めます。同時にファインダーのフレームの外の事象にも目を配ることができます。このため、決定的瞬間を予測し、まさにその瞬間をとらえることができます。これはライカMならではの撮影です。マグナム・フォトの写真家エリオット・アーウィットは「一眼レフカメラでは、カメラの中に像が作られますが、ライカのレンジファインダーを使う場合は、実際に像を見てこれを認識し、それからフレームに収める必要があります」と言っています。ライカMでは事前に写真像が構成され、これが瞬時に記録されるため、撮影された写真は苦労のあとの見られない「本物」の写真となるのです。撮影者は露出時にも被写体を見ることができます。また、自然光が入りにくい状況でも、明るくコントラストの高いファインダーのおかげで、きわめて正確で迅速なフォーカシングが可能となります。短いシャッタータイムラグとレンジファインダーの原理が融合され、ライカM型は世界で最速のカメラと証されています。

レンジファインダーシステムは、最先端の写真術用に作り出された、光学機器の最高傑作です。レンズを通してフォーカシングを行わねばならず、焦点距離とシャッタースピードが測距精度を決定する一眼レフシステムと異なり、ライカMのレンジファインダーでは、使用するレンズが変わっても基線長は一定です。このため、短い焦点距離では精度が格段に高くなります。ピントを合わせたい高コントラストの被写体がファインダーの中心にあれば、光が非常に少ない場合でも、素早くて確に、寸分の狂いもないフォーカシングを行うことができます。ブライトフレームセレクターを使用することにより、撮影者は、焦点距離を変えた場合の効果を事前確認することができ、前もって最適なレンズを選択することが可能です。自動パララックス補正機能により、設定距離にしたがってフレーム位置が自動的に調整されるため、6種類のブライトフレームは常に正確な撮影範囲を示します。完璧な写真撮影に関連する情報はすべて、被写体の周囲環境とともに、ブライトフレームファインダー内に表示されます。自然で目立たぬ写真撮影には理想的と言えるでしょう。







**PLAY**



**DELETE**



**PROTECT**



**INFO**



**SET**



**小型で控え目、けれど最高に機能的** プロの写真家用のカメラでライカMほど小型のものはありません。ミラーボックスを必要としないため、M8の奥行きは37mmを切っています。Mレンズも焦点距離が短いことの恩恵を受け、小型で軽量です。M型カメラとレンズは驚くほどコンパクトなため、旅行写真家や報道写真家にとって理想的な機材です。ミラーの振動とそれにもなうブレは、ライカMユーザーには無縁です。目立たず、シャッター音もほとんどしない独特の設計。ライカMで撮影した写真が他に類を見ぬ鮮やかさをもつ理由はここにもあります。緊迫した地域でライカMを使う写真家たちからは、ジャーナリストと思われずにすんだため、他のカメラを使う人には手が及ばなかったシーンをとらえることができたという報告が、幾度となく届けられています。撮影者の顔がカメラで隠れてしまうことがなくモデルとアイコンタクトを取り続けられるため、リラックスした表情を収めることができます。こうした思慮深さは、写真撮影の本質に的を絞った結果です。M型による写真撮影の本質的価値をデジタルの世界に持ち込むことで、新製品のライカM8にもこの理念が受け継がれています。



**小型で軽量** ライカMは理想的な相棒です。機材一式でさえ目立たぬケースに収められるため、ライカMは市販されている最小のプロ用カメラシステムのひとつに数えられています。標準レンズ装備のカメラは持ち運びが便利のため、いつでも携帯可能です。

**的を絞って** ライカM型の進化の全過程を通じて行なわれた開発と改良は、真の写真撮影のニーズに応えるものでした。デジタルライカM8の設計時には、デジタル技術によって提供される機能のすべてについて、その妥当性がテストされました。その結果、技術的に可能な機能をすべて網羅することはせず、写真という観点から理にかなうものだけに力を注いだ、プロ写真家用のデジタルレンジファインダーカメラができあがったのです。輝度のヒストグラム（被写体のディテールに対応）を用いて露出の制御を行うなどの独自の方法は、こうした機能の一例です。





**最高の写真は最高のレンズから** 非常にコンパクトなライカMレンズの設計と構造が目指すゴールはただひとつ、アナログでもデジタルでも、最も質の高い写真撮影を可能にすることです。群を抜くその性能は、ライカ技術陣がその努力と工夫をすべて傾注して、明快で直線的な光学的ソリューションに取り組んだという事実によるものです。このソリューションには、しばしば、レンズエレメントをわずか数枚とし、できるだけ光の通り道への障害物を少なくするという方法が含まれます。高品質のガラスと最先端の生産技術を用いて実現したこの自然な設計により、特徴をはっきりととらえた写真を撮ることができるのです。こうしてでき上がった写真は、コントラストと解像度に優れているだけでなく、光の状態が良くない場合でも、鮮明で色合い豊かな自然な仕上がりになっています。写真家たちからは、バックラッシュがなく驚くほど滑らかにフォーカシングできるという点も評価されています。こうした品質を確保できるのは、光学および精密機器分野の専門家の経験と技量のおかげです。彼らが一枚一枚手作りしているレンズは、工業的に大量生産されたものと異なり、撮影者が心から信頼できる最高の品質基準を満たすものです。



**ライカレンズの性能**は最先端の技術に基づいています。非球面レンズのおかげで、最高性能を維持しつつきわめて小型の構造とすることが可能になったのです。いわゆる「フローティングエレメント」により、至近距離でも抜群の再現性が保証されます。また、望遠レンズではアポクロマート補正により、色縁のない鮮やかな像を得ることができます。反射を抑える高度な機能により、影の部分のディテールのコントラストも向上し視認しやすくなります。結論を言えば、ライカレンズの全能力が（もちろん最大口径のものについても）常に利用できるということです。ライカレンズを使えば、被写界深度を深くしたい時にだけ絞りを絞ればよいことになります。

**熟練技能とハイテク** ライカレンズの傑出した品質は、最先端技術によってのみ得られたものではありません。職人魂、そして精密機械工と光学の専門家の経験も不可欠の要素です。たとえば、レンズ上のヘリコイドはすべて研磨されます。この結果、何十年にもわたり、極端な温度条件下でも、バックラッシュがなく驚くほど滑らかにフォーカシングできるのです。







**50年にわたる互換性** 1950年代、ライカの技術者はライカMバヨネット  
で時代を超えた基準を作り、先見の明を示しました。この基準により、機種が  
異なっても互換性が保証されるのです。それは今日のデジタルライカM8におい  
ても同様です。この基準が維持された結果、ほぼすべてのMレンズはデジタル  
ライカへの装着が可能です。しかし、機種間の互換性は静止を意味するわけ  
ではありません。すべては進化なのです。ライカM8は、新しい6ビットコードに  
よって装着レンズを識別し、この情報を用いてその後の撮影の設定を行います。  
互換性はバヨネットだけにとどまらず、広範囲のアクセサリにも適用されま  
す。M8ではデジタル画像の形式としてJPEGとDNG（RAWデータ形式）を選択  
できますが、この選択さえ、画像品質、将来の互換性、そしてデジタルデータ  
の安全な記録を保証するために設計されたものなのです。M型を選択すること  
は、これまでも増して、永続的価値を選択することと同義となるでしょう。

ライカは未来へ向けて最新の装備を整えると同時に、機種間の互換性確保  
という基本理念を維持しています。1954年のバヨネットと現在の6ビットコ  
ード付きバヨネットとは、数十年を隔てて製作されたものですが、何ら異  
なるところはありません。新しいM8のMバヨネットマウントには、コード  
なしのレンズも装着できます。同様に、アナログM型カメラにも、6ビッ  
トコード付きのレンズを、何の制限もなく装着することができます。

1954年当時の  
バヨネット



2006年のバヨネット

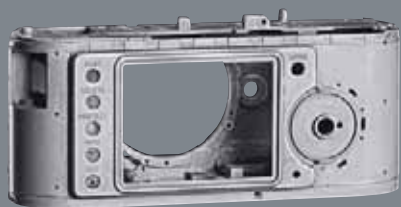






一生使えるものはほとんどない。ライカMならもっと長く使えることも珍しくない。撮影者は普通、日々の生活の真っ只中にいるものです。暑くても寒くても、雨の中でも埃の中でも。ライカMは、想定できるあらゆる条件のもとで、耐久性に優れ、高い信頼性を維持し、堅牢でなければなりません。耐久性は新たなM型の開発においても常に最優先課題です。トップカバーとベースプレートには真鍮、ハウジングには高強度マグネシウム合金と、ボディに最高級の材質のみを使用する理由はここにあります。デジタル技術に係る構成部品も、長年の使用に耐え得るよう慎重に選ばれています。高度な生産技術を用い入念な組み立てを行なうため、数十年におよぶ確実な動作が可能です。このため、写真家たちは可能な限り長く自分のライカを楽しむことができます。まさに一生もののカメラ。次代に引き継がれることも珍しくありません。

**不変の品質** 精密さがライカ製造の判断基準です。すべての重要な製造段階の厳しい試験が終了するまで、製品が出荷されることはありません。数十年の歳月を経てもまだ維持できる製品は、今日では本物の贅沢品ですが、ライカのカスタム・サービスではかつて製造されたほぼすべてのM型カメラの整備と修理を行うことができます。



**最適の材質** 堅牢なトップカバーと強度の大きいベースプレートは、最新の技術を用いて無垢の真鍮から削り出され、ブラックまたはシルバー・クローム仕上げを施されたものです。密封型の金属ボディは高強度マグネシウム合金製で、プロ仕様の耐久性を備えています。



**ライカM8：デジタルM** 多くのライカ写真家たちの夢がついに現実のものとなりました。ライカM8により、ライカM型はデジタル撮影の分野に足を踏み入れたのです。これまでのデジタルカメラとは違います。ただM型のように見えるというだけではなく、ライカM8は、クリエイティブで洗練されたデジタル写真が得られるよう、アナログライカM型の利点をすべて忠実に再現しています。控え目で静かで正確で速いという利点をもつ、レンジファインダーシステムを用いる唯一のプロ仕様のデジタルカメラなのです。そして、妥協を許さぬM型の品質基準が、M8にもそのまま適用されました。ほぼすべてのMレンズと完全に互換性があるため、その特有の性能を利用してデジタル写真を撮ることができます。1030万画素の解像度を持つノイズの少ないCCDイメージセンサーは、コード化に対応したレンズ情報を読み込むことにより、最適な画質を実現します。無駄を削ぎ落とし、必要最小限のものに絞ったシンプルな操作性と機能性を備えました。また、デジタル技術の提供する便利な機能が、定評あるライカMのコンセプトを補完します。ライカM8は、時代を超越する初めての「ドイツ製」デジタルカメラです。胸躍る新しさながら馴染み深くて安心できる、そんなカメラなのです。

# 本物のM。妥協はしません。ライカ M8。

## —— 互換性の基本理念

世界最高と評されるレンズが、ライカM8でその能力を十二分に実証します。1954年以来M型レンズはどれもきわめて描写力が高く、このためデジタル写真撮影にうってつけです。M8では、レンズの完全な性能を維持するため、解像度を落とすセンサー前面のモアレフィルターの採用は意図的に見送られました。



## —— 最高の解像度

ライカMレンズ独自の特徴に合わせてノイズの少ないCCDイメージセンサーの最適化が行なわれ、1030万画素という卓越した解像度が実現しました。この特殊なセンサーとマイクロレンズオフセットにより、問題となる写真四隅の口径食が解消されます。また、カバーガラスが非常に薄いため、屈折による光がセンサーに斜めに当たるのを防ぎます。

## —— 完全な受光効率

最高でISO2500までの感度設定が可能のため、アナログフィルムを使うよりずっときめの細かい写真を撮ることが可能になりました。この結果、M8は自然光写真撮影の歴史に新たな一歩を刻んだのです。



### —— デジタルと耐久性

M8はプロ仕様のカメラとして長い間成果をあげられるよう設計されています。密封型の金属ボディは高強度マグネシウム合金製です。また、トップカバーとベースプレートは、無垢の真鍮塊から削り出し、ブラックまたはシルバー・クローム仕上げを施したものです。またM8ではDNGフォーマットを採用していますが、これはRAWデータ形式で劣化がなく長期にわたって安全に保管できるためです。

### —— 正確なフォーカシングと直感的操作

M8の開発に当たっては、一貫して、写真という観点から見て重要なデジタルオプションのみを組み込むという努力がなされました。M8では、シャッタースピード自動制御やマニュアルフォーカスといった基本的な機能が維持され、実績あるライカレンジファインダーの原理と組み合わせられました。また、シンプルで直感的なメニューシステムにより、数個のキーを押すだけで、2.5型モニター上で設定を変更することができます。



### —— クリエイティブな写真撮影

電子制御式メタルブレード・フォーカルプレーンシャッターで、1/8000秒までのシャッタースピードが可能になりました。絞り開放でまぶしい光の中でも、撮影者は自由に創造性を発揮することができます。フラッシュ同調速度が1/250秒と速いため、日中のフラッシュ撮影も可能です。

### —— 静かにそして控え目に

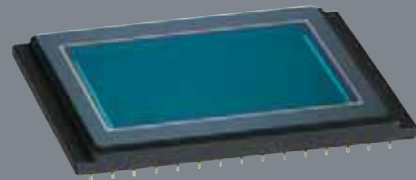
シャッターの巻き上げをできる限り無音に近くするため、最初の巻き上げギアの中に、ゴムで覆った摩擦車を入れています。また、カムディスクを用いて、巻き上げアームの経路全体を通じ一定トルクで力を伝達できるようにしました。この結果、電動モーターがほぼ無音でシャッターを巻き上げます。



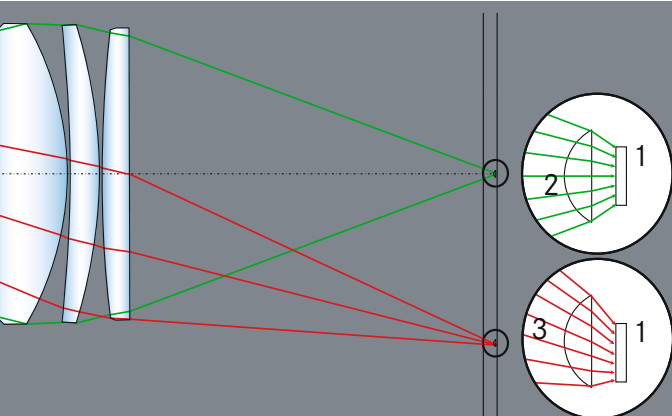
**ライカ M8：群を抜く光学性能** ライカでは、画質はただのキャッチフレーズではありません。数々の性能の組み合わせを最適化して、確実に到達すべきゴールなのです。6ビットコードをもつライカMレンズでは、性能は実際に向上しており、加えて改良型センサー、DNG（Digital Negative）フォーマット、Capture One LE RAWデータコンバーターにより最高の画質が保証されます。

**Mレンズ：6ビットのコード** センサー前面に解像度を落とすモアレフィルターがないため、リニア解像度が格段に向上します。特に最新のライカMレンズでは格段の向上が望めます。並外れた解像力をもち補正能力も高いため、デジタル技術とともに使用するのに理想的なレンズです。ライカM8では、カメラのバヨネット部の6ビットコード検知センサーにより、現在使用されているライカMレンズの6ビットコードを識別するようになっています。このため、口径食が補正されて高画質がさらに向上することになります。識別されたレンズの種類は画像ファイル用のEXIFデータに保存されます。

**6ビットコードへの改造** 既存のMレンズについては、ライカカメラジャパンカスタム・サービスにて6ビットコード化の改造を受け付けています。



**改良型センサー** CCDの技術により画像ノイズを最小限に抑えることができます。M8の画像センサーにこの技術が選ばれたのもその理由によるものです。高い基本感度（ISO160）から最高感度（ISO2500）までの感度設定により、アナログフィルムよりずっときめの細かい写真を撮ることができます。ライカMレンズの解像度をフルに活用するため、光学的に画像の詳細を除去するモアレフィルターは意図的に省かれています。その代わりにモアレ模様はカメラの信号プロセッサーで除去されます。ライカMレンズでは、端から入射する光は、斜めにセンサーに当たるため、カバーガラスの厚みを0.5mmまでに抑えて望ましくない屈折を防いでいます。この結果、輝度は端部まで均一となってセンサーによる口径食は発生せず、既存のライカMレンズは、デジタルカメラにおいてその能力を十二分に発揮することができるのです。ライカは、ライカM8およびライカ デジタル・モジュールRを擁し、このような方法で一貫して既存のセンサー技術の改良を続ける唯一のデジタルカメラシステムメーカーなのです。



- 1 画素
- 2 画像センサーの中心で中央に位置するマイクロレンズ
- 3 画像センサーの端部近くで横移動したマイクロレンズ

CCDセンサーの光感度を高めるため、**マイクロレンズ**は画素の正面に置かれます。しかし、画像の端部では光が斜めにセンサーに当たるため、従来構造のマイクロレンズでは、画素上に光を導くことはできなくなります。この理由から、ライカM8ではセンサーのマイクロレンズを端部近くでは横方向に動かし、ライカMレンズの特性にぴったり合わせてあるのです。この結果、画像の輝度は端部まで均一となり、センサーによる口径食は発生しません。コダックではライカM8のセンサー用として、これまでのセンサーより屈折力の小さいマイクロレンズを使用しているのも、斜めに画素に当たる光の許容角度が大きくなっています。このおかげで、ライカMレンズは、デジタルカメラにおいてその能力を十二分に発揮することができるのです。

**最適なRAWデータ変換** プロフェッショナル仕様のCapture One LE RAWデータコンバーターにより、CCDセンサーから供給され劣化のないAdobe® DNGに保存される未加工データは、確実に「最高品質が実現するよう処理」されます。ライカは、デンマークのメーカーPhase Oneとともに高度なカメラのプロファイルを作成し、それに必要なソフトウェアの修正を行いました。この結果、デジタルカラー処理のために画質を最適化したアルゴリズムが完成し、驚くべき解像度ながら非常に画像ノイズの少ない写真が得られるようになりました。CCDセンサーから供給される16ビット画像から現像した写真は、きわめて微妙な濃淡のものでさえ、暗室でプロが現像した写真の画質と比べてまったく遜色ありません。画質調整のための論理機能とよくできたユーザーインターフェースのおかげで、Capture One LEを用いて、いとも簡単に脅威のスピードで抜群の成果を得ることができるのです。



操作部ではなく、写真に的を絞って 多大な注意を払い、長年にわたり経験を積み、プロの写真家の仕事を深く理解した結果が、M8の操作概念として結実しました。本当に必要なものに的を絞った結果、ユーザーインターフェースは、シンプルでクリア、かつ直感的なものとなりました。ライカM8では、多目的なファンクションキーと複雑なメニュー構造は、意図的に省かれています。

**シンプルかつ直感的な操作** デジタル機能の操作は、十字キーとダイヤルを組み合わせたものが中心で、これを用いて迅速な設定が可能です。設定キーを押すと、2.5型モニター上に、露出パラメーターメニューが表示され、ここで、素早く重要設定の確認と調節を行なうことができます（1. センサー感度、2. 露出補正、3. ホワイトバランス、4. データ圧縮、5. 解像度）。プロファイル用のメモリには3つの設定が可能、特定用途によく使用する設定の組み合わせをここに保存し呼び出すことが可能です。メニューボタンを押すと、明確な構造を持つシステムメニューが呼び出され、ここで、継続的に適用されるいくつかの基本設定（ECI RGB、Adobe® RGB、sRGBの色空間など）の変更を行なうことができます。また、撮影直後のモニターへのプレビュー表示の有無、その表示時間、輝度のヒストグラムの表示の有無についても設定が可能です。



トップブカバーの左端には、常にSDカードとリチウムイオンバッテリーの残量が表示されます。このためひと目でこれらの基本情報を確認することができます。

**センサーのクリーニング** ライカM8には、センサーのクリーニングを行なうための特別機能があります。メニューの中から該当するオプションを選択し、シャッターリリースボタンを押すと、クリーニングを実行する間はシャッターが開いた状態になります。Mカメラは奥行きが少ないため、たとえばデジタル一眼レフカメラなどより簡単にセンサーにアクセスすることができます。

**完璧に保護** バッテリーとSDカードのスロットはベースプレートの下側にあり、無垢の真鍮から削り出されたこのプレートにより、湿気や埃から効果的に保護されています。



**輝度のヒストグラム** プロ仕様のデジタルカメラとして、ライカM8はRGB階調値のヒストグラムを提供しています。好きな時にヒストグラムを呼び出して保存した写真の露出をチェックすることができます。また、このヒストグラムをオートレビュー機能と組み合わせて利用することも可能です。さらに、便利な機能として、クリッピング警告機能と呼ばれる、画像の露出過多部分へのマーキング機能があります。一番の利点は、液晶モニター上で画像を拡大すると、これら2つの制御ツールの表示も順次更新されるという点です。このため、画像のディテールに至るまで画質をチェックすることが可能です。インフォメーションキーを押すと、クイックメニューから行った撮影設定と画像ファイルとともに保存されたその他の情報が表示されます。このため、撮影してすぐに写真を完全にチェックすることができます。

**セルフタイマー** ライカM8には遅延時間を2秒または12秒に設定できるセルフタイマーがついています。

**リモートコントロール** ライカM8には、学術的な撮影や写真スタジオでの撮影を想定し、カメラの遠隔制御を可能にする特殊なソフトウェアが搭載されています。ライカDigital Captureを利用すれば、USB接続によってコンピューターからカメラの操作を行なうことも、画像データを直接ハードディスクに保存することもできます。また、このソフトウェアは感度や解像度などの露出パラメーターメニューのすべての設定をカメラに送信することもできます。

新たな創造性：M8でのフラッシュ撮影 最先端のメタルブレード・フォーカルプレーンシャッターにより、フラッシュ同調速度は1/250秒まで速くなりました。フラッシュ測光のためのプレ発光機能をもつ新しいM-TTLフラッシュ技術が、構図とフラッシュ露出における新たな創造性への扉を開きます。

**革新的なM-TTLフラッシュ技術** 新しいフラッシュ技術の特徴として、実際にフラッシュが発光する直前に測光のためプレ発光が行われることが挙げられます。TTL露出計が被写体表面に反射した光を測定し、これをもとに実際のフラッシュ発光に必要な発光量が決定されます。自然光にあわせてフラッシュの光が追加されるので、フラッシュ撮影でも自然光の中で撮影されたような写真が得られます。



**自然光撮影のための自動日中シンクロ機能** オートスローシンクロ機能により、フラッシュ技術と絞り優先AEモードを併用することが可能になりました。この機能により、周囲の光量が変化した場合でも、背景とのバランスをとることができます。測光をもとにフラッシュが発光し、適正露出が得られます。また、撮影者の経験や意図する効果にしたがって、シャッタースピード自動制御時の最大露出時間を設定することができます。マニュアル設定も可能ですが、6ビットコード付きのレンズ使用時には、「焦点距離分の1 (秒)」という一般則を用いて自動的に設定が行われます。

Simon Wheatley uses the LEICA M8

「Mシリーズのカメラを使い始めた時、撮影は突然シンプルになりました... 今、デジタル時代におけるこのシンプルなカメラの登場を歓迎します。」













サイモン・ウィートリーは、1970年シンガポールで生まれ、そこで子供時代を過ごしました。10代でイギリスに移り、アメリカおよびラテンアメリカ研究で学位を得て1993年にマンチェスター大学を卒業しています。ブダペストで英語教師をしていた時、共産主義から資本主義への移行の結果生じた社会の混乱に興味を掻きたてられ、真剣に写真を撮り始めました。最近では彼の写真は、置き去りにされた都市部に集中しており、現在はロンドンのスラム街の若者たちの写真集を完成しようとしています。2005年には、マグナム・フォトの会員に推薦されました。



**ライカM7：昔ながらのM写真の魅力** 「今」の時代を超えて存在する作品は名品と呼ばれます。そして、それらはいつの時代も変わることはありません。変化する世界に応じて再評価されるのみです。アナログライカM7は、まさにそういう名品です。ライカMでの銀塩写真には独特の魅力があります。フィルムを感光する過程と同様に、被写体やカメラ自体との間に精神的なつながりが生まれるのです。撮影時に神経を集中し、出来上がりを予測し、素晴らしい成果を作り出す - これが、アナログMカメラで良い写真を撮るための基本です。ライカM7では、リリースボタンを半押しすると露出が固定されるAEロック機能を備えた、便利な絞り優先AEモードが採用されています。このためピント合わせが簡単で、構図も素早く決定でき、撮影だけに集中することが可能になりました。また、TTLフラッシュ測光により、フラッシュ撮影でも適正露出が得られます。高速同調と後幕シンクロが創造性の幅を広げます。フィルムの感度はマニュアルでも自動（DXコード）でも設定可能です。ファインダー内の表示により撮影はさらに容易になります。独自の機構により、ファインダー内に必要情報がすべてはっきり表示されるようになっており、光の状態が良くない場合でも良好な表示状態が保たれます。



# ライカM7：現代の名品

## —— もっと正確に

M7では、すべてのアナログM型カメラに使用されていた伝説的なライカ布幕フォーカルプレーンシャッターに改良が施され、露出時間中はほぼ無音で電子制御されるようになりました。絞り優先AEモード時には不可欠の要素です。一番よく使われるシャッタースピード（1/60秒および1/125秒）についてはバッテリーがなくても作動します。



## —— 独創的なフラッシュ

M7では、特別なフラッシュユニットと併用すると、後幕シンクロでフラッシュを発光させることができます。後幕シンクロの利点は、日中シンクロで長時間露出時などに、より自然な画像が得られることです。

## —— 露出ミスをなくす

ライカM7では、マニュアルまたは自動（DXコード）でフィルム感度を設定することができます。このため、ISO設定不良による露出ミスがなくなります。絞り優先AEモード時の露出補正では、±2段の範囲で補正が可能です。

#### —— すぐに使用可能に

電源ON/OFFスイッチは、人間工学的見地からシャッターリリースボタンのすぐそばに配置されており、スイッチを入れるとライカM7の電子機能が使用可能になり、スイッチを切るとリリースボタンがロックされます。



#### —— 絞り優先AEモード

馴染み深いマニュアル露出設定に加えて、ライカM7では、リリースボタンを半押しすると露出が固定されるAEロック機能を備えた、便利な絞り優先AEモードも備えています。

#### —— 常に画像とともに

レンジファインダーカメラ独自の機構により、絞り優先AEモード時のシャッタースピード、マニュアル設定時の露出過多や露出不足の表示、フラッシュユニット準備完了表示、バッテリー残量低下時の警告など、必要なあらゆる情報が、ライカM7のファインダー内にはっきりと表示されます。



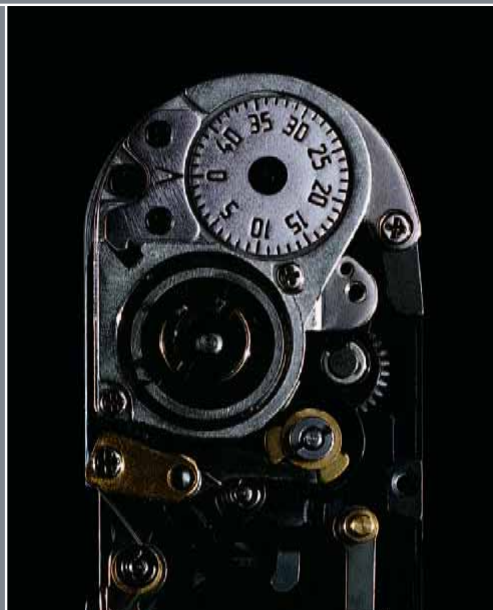
**ライカM7：便利なM** 速写性と利便性、あらゆる状況下での絶対的信頼性、バッテリーなしでの緊急シャッター、最高級の材質の使用、安定した価値、長寿命、すべての光学系および機械系部品の精密さ。これらすべてが、完全機械式のライカMPに代わるカメラ、ライカM7の特徴です。

**レンジファインダーシステム**は、最先端の写真術用に作り出された、光学機器の最高傑作です。焦点距離が測距精度を決定する一眼レフと異なり、ライカMのレンジファインダーでは、使用するレンズが変わっても基線長は一定です。このため、短い焦点距離では精度が格段に高くなります。さらに、特別な測距方法により、光が非常に少ない場合でも、素早く的確に、寸分の狂いもないフォーカシングをすることができます。最高のコントラストと明るさを得るため、すべての光学部品とファインダー窓には複雑なマルチコーティングが施されています。完璧な写真撮影に関連する情報はすべて、被写体の周囲環境とともに、ブライツフレームファインダー内に明示されます。自然で目立たぬ写真撮影には理想的と言えるでしょう。ライカM7の標準ファインダー倍率は0.72倍（一般用）ですが、ライカ アラカルトでは、0.58倍（眼鏡着用者に最適の広角用）および0.85倍（望遠用）も選択できます。



**露出測光** 逆光、スポットライト、横からの光などがあると、明るさ、コントラスト、色が実際と変わって見えます。M7はこの問題に難なく対処しました。シャッターリリースボタンを軽く押すと、M7のTTL測光機能が作動します。次いでフォトダイオードが、シャッター幕上のホワイトスポットに反射し集光レンズにより集められた光を測定します。この測光機能は、絶対的な精度で作動し、その驚くべき高感度のおかげで、ろうそくの明かりの中でさえ使用することができます。連続的に変化する絞り優先AEモードとの併用により、あらゆる状況下で何の問題もなく、完璧な露出で撮影を行なうことができます。

**機械式機構** ライカM7の機械式機構は、精密さと信頼性の点で他の追随を許しません。使用されているのは高級材料ばかりです。トップカバーは、最新の技術を用いて無垢の真鍮から加工され、ボディは軽量ながらきわめて強度の高いマグネシウム合金から作られています。どのような状況下でも、最も過酷な条件下でも、ライカM7は難なく敏速に、そして何より静かに動作します。一眼レフのような騒々しいミラーも自動絞り装置も使用していないからです。したがって、シャッター音は一眼レフカメラとは比較にならないほど静かです。素早いレンズ交換が可能なクローム仕上げのパヨネットマウントや、少数のボタンやスイッチ類も、カメラ自体と同様頑強で耐久性に優れています。これらはすべて、実用的に設計され人間工学に基づいて配置されているため、手袋をはめたままでの操作も容易です。触れれば分かる指標により、暗い中でのレンズ交換も可能です。また、損傷の恐れのある突き出たピンやレバー、電子接点がないため、保護カバーを外したまま保管することもできます。

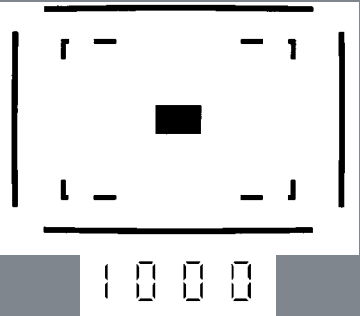


**絞り優先AEモード** より高速に、より便利に、そしてより確実に。従来のマニュアル露出設定に加え、ライカM7には、シャッタースピードが連続的に変化する絞り優先AEモードが装備されています。あらかじめレンズの絞りを設定しておくと、あとは自動的に、電子制御により適正露出の得られる理想的なシャッタースピードが決定されます。32秒までの長時間露出も可能です。レリーズボタンを押すことで露出がロックできるので、被写体の特定の部分に必要な露出を設定することもできます。必要に応じ、1枚の撮影についても連続の撮影についても、露出設定機能を用いて+2から-2EVの範囲で補正を行なうことが可能です。



**シャッター** 今や伝説となった、ライカM型独自の布幕フォーカルプレーンシャッター。M7では、従来のすべての利点を踏襲しつつ、シャッターに全面的な変更が施され、露出時間の電子制御機能が組み込まれました。2枚の布幕の動作が比較的遅いため、作動音は驚くほど低く、シャッターレリーズも静かで振動もありません。1/60秒と1/125秒の露出時間については、シャッターは機械制御のため、バッテリーが切れても使用することができます。シャッタータイムラグはきわめて短く、アナログMカメラは世界で最も速いカメラと言われています。

**ファインダーの表示** ライカM7では、大型で明るいファインダーの下部に、自動制御されたシャッタースピードがLED表示されます。またマニュアルモードでは、お馴染みの露出バランス表示が現れます。長時間露出の場合はファインダー内に残りの露出時間が表示され、長時間バルブ露出（Bモード）では経過時間が表示されます。LED表示の明るさは周囲環境に応じて自動的に調節され、まぶしい太陽の下でも最適な表示状態が確保されるので、自然光の下でも光って見えないということはありません。





# ライカM7のディテール



**電源スイッチ** 人間工学的見地からシャッターリリースボタンのすぐそばに配置され、カメラの電子機能を作動させる働きをします。スイッチを入れてから2秒間は、装填されたフィルムの感度が自動的にファインダーに表示されます。スイッチを切るとリリースボタンがロックされ、不要な露光を防ぎます。

**フラッシュ** TTL測光に加え、ライカM7にはさらに2つの専門家向けの技術が採用されています - さまざまな状況下で有用な、太陽光の下で被写体を明るくする日中シンクロと、1/1000秒までのシャッタースピードが可能な高速シンクロ（HSS）です。この場合、露出とフラッシュはマニュアル設定となります。日中シンクロで長時間露出時により自然な画像を得るため、ライカM7のフラッシュは、後幕シンクロで発光させることができます。これらの機能には専用のMetz社製フラッシュユニットが別途必要となります。



**DXコード** ライカM7ではフィルム感度は自動設定となり、ISO設定を誤ったために起こる露出ミスは過去のものとなりました。もちろん、マニュアルでフィルム感度を設定することもできます。

ライカMP。卓越した機械精度。あとは何もいらない 今日、デジタルカメラのモニターを見ることは、周囲を見る最も一般的な方法になりました。カメラを使う本人は気づかないこともあります。この方法では被写体との間に距離が生じます。なぜなら、撮影者が見ているのは、被写体そのものではなく、被写体の合成像に過ぎないからです。ライカMPではそのようなことはありません。撮影という行為が生き生きとした体験であった本来の姿に戻ると同時に、デジタル写真が主流の現代において、レンジファインダーカメラでの撮影を改めて刺激的で官能的な経験にしてくれるのです。ライカMPは、光学的にも技術的にも、本当に必要なものだけを凝縮したカメラです。ライカM7では、電子制御式シャッターと絞り優先AEモードによりさらなる利便性と機能が提供されますが、その純然たる機械式の系譜に連なるライカMPでは、より直感的な操作が可能で、決定や設定はすべて撮影者の手に委ねられます。精密技術の粋を集めたライカMP。その開発と製造は、機械式レンジファインダーカメラの製造における75年近い経験の成果です。この最高傑作を手にした日から、忘れることのできない経験の世界が広がります。ライカMPが提供するの、は、短時間の感動以上のもの。これは一生もののカメラなのです。



# ライカMP：撮影ツール

## —— 優れた耐久性

ライカMPIは、長い寿命と価値の持続を基本コンセプトに設計されています。厳選された材料だけを用い高度な製造方法を採用している理由はそこにあります。ライカMPIは、発表前に、さまざまな屋内試験や屋外試験でその堅牢性を証明しました。バッテリーに頼るどんなカメラも作動しないような極寒条件での試験や、ほぼすべてのカメラが耐えられないほどの回数のシャッターリリース試験。この結果、ライカは、正規取扱店からMPを購入した登録者に対し、5年間というきわめて長期間の保証を実施しています。



## —— 控え目

多くのプロ写真家が、赤いライカのロゴを愛しているにもかかわらず、自分たちのカメラのロゴを慎重に隠そうとするため、ライカMPではこのロゴをなくしました。その昔ながらの外観さえあれば、鑑定士や所有者はライカを見分けることができると判断したからです。トップカバー上のライカの銘があれば十分です。

## —— ひとつひとつが別物

ライカMPの表面仕上げには、シルバー・クローム仕上げとブラック・ペイント仕上げの2種類があります。そして、使い込むにしたがって、角や縁の部分のブラック・ペイントが剥げ、地味な真鍮部分が露出し始めると、持ち主はカメラとともに幾多の経験を重ねてきたことを知るのである。

### 凝縮された精密さ

撮影が光を用いて描くことだとすれば、ライカM型での撮影は、光が少ない場合でも表現豊かに描くことを意味します。これを可能にしているのが、絞り開放でも最大限の機能を発揮する高コントラストのレンズであり、ライカのレンジファインダーでの寸分の狂いもないフォーカシングであり、布幕フォーカルプレーンシャッターによる振動のないシャッター動作なのです。ライカMPでは、カメラ自身が「考える」ことをしないため、厳しい光の条件もまったく問題にはなりません。カメラは高度な測光機能を用いて、撮影者が正しい選択をするのを助ける正確なデータを提供するだけなのです。



## \_\_\_\_ 卓越したミニマリズム

妥協を排した設計のライカMPは、どんな時にも頼りになる存在です。堅牢なボディ、すべて金属製部品で構成される操作部は、どのような使用条件にも耐えることができます。MPが頼りにするのは、バッテリーではなく撮影者の腕前のみ。バッテリーが必要なのは、測光の時だけです。実際、シャッタースピードと絞りを自分で予測できる撮影者なら、電子機能をまったく使わずに写真を撮ることが可能です。

# ライカMPのディテール

**ライカMPのレンジファインダーは**、150を超える精密部品から作られた光学機器の最高傑作です。何十年にもわたり、完璧を目指し開発と改良が繰り返されてきました。レンズの明るさと焦点距離がファインダー内の像の大きさを決定する一眼レフカメラと異なり、像のサイズと明るさは常に一定です。撮影者はすぐに頭の中で構図を組み立て、それをファインダーのフレーム内にとらえようと試みることができます。ファインダー内の表示は露出表示のみで、光の状態にかかわらずはっきり視認できるので、きわめて正確にそして直感的に露出を設定することが可能です。信頼できる結果を得るには理想的な方法と言えるでしょう。ライカMPの標準ファインダー倍率は、0.72倍（一般用）ですが、ライカ アラカルトでは、0.58倍（眼鏡着用者に最適の広角用）および0.85倍（望遠用）も選択できます。

**ボディ** ライカMPIは、高品質の材料のみを用いて作られています。トップカバーとベースプレートは、最新の技術を用いて無垢の真鍮から加工されています。シルバー仕上げのものについては、まず銅メッキを、次いでニッケルメッキを施し、最後にきわめて耐久性の高い精巧なクロームメッキ（光沢またはつや消し）で仕上げています。ブラック・ペイント仕上げのものについては、経験を積んだ専門の職人が、接着力の強い最新の合成樹脂ラッカーを用いて均一で傷ひとつない塗装を施します。ボディは軽量ながらきわめて強度の高いマグネシウム合金製です。素早いレンズ交換が可能なクロームメッキのパヨネットマウントや、すべて金属製の操作部類も真鍮です。ライカMPの革製の外装は、実績のある、実用的で磨耗に強いプラスチック素材で作られており、これによりカメラは控え目で時代に左右されない外観となっています。



**シャッター** ライカMPの布幕フォーカルプレーンシャッターの動作原理は、1913年のオスカー・バルナックの発明まで遡ります。中核となるのは、ゴムで覆われた綿布（遮光性があり耐久性と柔軟性が極めて高い材質）で作られた2枚の幕です。スリットの幅（つまりシャッタースピード）は、高精度のレバーとカムにより機械だけで制御されています。これらのレバーやカムのほとんどは研削・研磨を行なった硬化鋼です。シャッタースピードが遅い場合は、ほとんど無音に制御されます。これらの部品は、細部にまで注意を払い愛情をこめて、何十年もの間ライカのために作られてきたものです。この制御機構のおかげで、2枚の幕が小さいテンションで比較的ゆっくり動作するため、作動音は驚くほど低く、シャッターレリーズも静かで振動もありません。ライカMPではシャッタータイムラグは他に例を見ぬほど短いため、M7とともに世界で最も速いプロ仕様のシステムカメラと言われています。



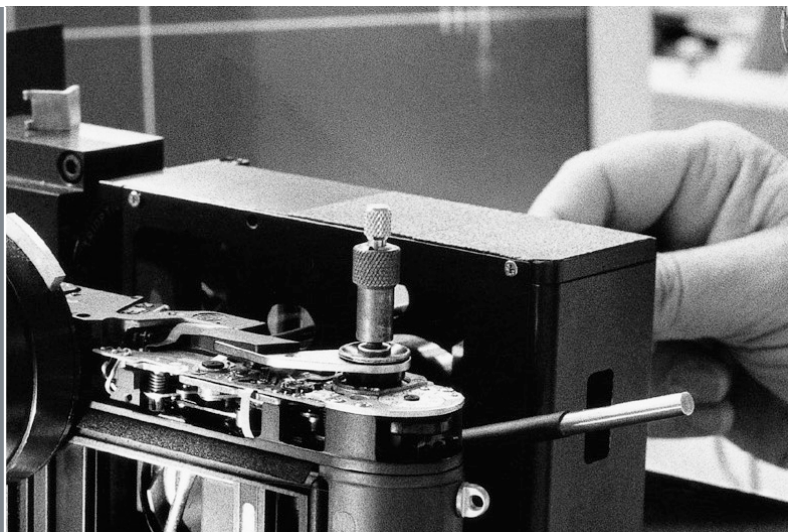
## ライカ アラカルト：職人の手作業から生まれるカスタマイズモデル

すべてのライカMに共通の重要な特徴 - それは、精度、性能、信頼性です。しかしながら、アナログM7とMPの外観は個性を生かしてカスタマイズすることができます。さらに仕様の面でのカスタマイズも可能で、一人一人の撮影時の好みに合わせたライカMカメラを作ることができるのです。最高級の素材、洗練されたフォルム、繊細な色合いに加え、操作部の部品や細部の機能もセレクトできるので、まったく目立たないプロ用のカメラから、人目を引く贅沢なものまで、デザインの可能性は果てしなく広がっているといっても過言ではありません。ライカアラカルトは、ライカの伝統ある製造プロセス、つまり熟練した技術者の手作業だからこそ可能なのです。たとえば、きめや密度の違う厚さ0.8mmの各種のレザーを、注文を受けたカメラに最適な状態にし、カットして手作業で貼り付けます。個々の構成部品の組み立てから最終品質検査に至るまで、ライカM7やMPを構成する1300個にのぼる部品のひとつひとつが、あなたの要望に合うよう心をこめて作られます - それが、ライカ アラカルト。あなたに負けないほどライカMを愛する人々によって作り上げられているのです。



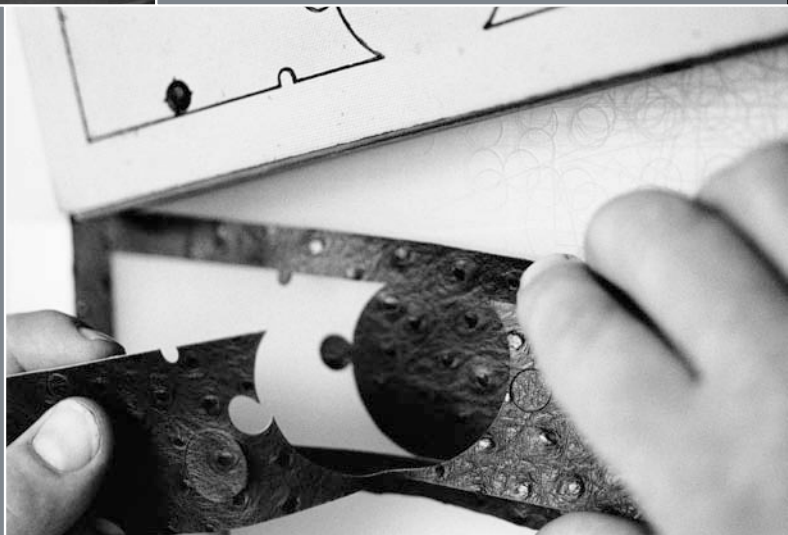
# 熟練した専門家の手による最高傑作

**レンジファインダーの調整** 熟練した専門職人が、厳密に規定されたプロセスで、レンジファインダー、ファインダーフレーム、ファインダーディスプレイが正確に調整されるよう徹底されています。



**トップカバーの取り付け** トップカバーは、厚さ1mmの真鍮製で、その下にあるすべての部品を大きな負荷からも保護します。

**レーザーのカット** レザーの種類に合わせてそれぞれ加工された、精度の高い道具を用いてレーザーに穴を開けます。



**シャッタースピードの最終点検** 組み立て終了後、ライカアラカルトモデルのひとつひとつについて、すべての機能の再点検を行ないます。



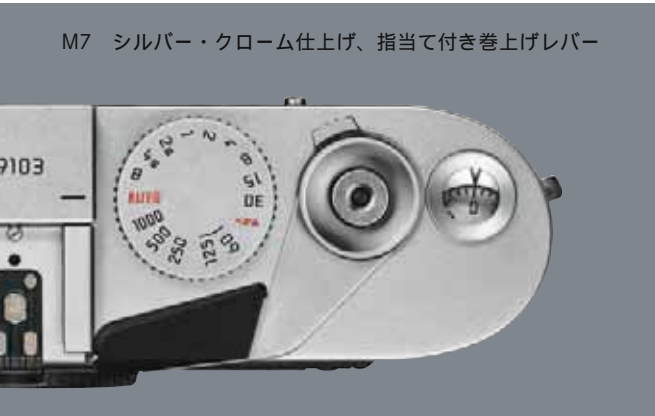
**実装部品の取り付け** 注文に応じて、標準または機能的スタイルの操作部品を取り付けます。



**刻印のレイアウト** 熟練した職人が、ラッカーを用いて、慎重にライカアラカルトモデル上の刻印の仕上げを行ないます。



あなただけのライカ：個性を表現するカメラ 今やスタンダードな外観とはまったく違ったライカM7やMPを、そしてあなたの機能面や実用面の要望、見た目の美しさの好みを満たす特徴を選ぶことが可能です。まず、トップカバーの色や、各種の天然なめし革の中から外装用レザーを選ぶことから始まります。カメラケースとキャリングストラップについても同素材のレザーが選べます。お好みのレンズに最適のブライトフレーム、ファインダー倍率でさえあなた次第です。倍率は、0.72倍（一般用）、0.58倍（眼鏡着用者に最適の広角用）および0.85倍（望遠用）の中から選択できます。操作部については、必要に応じてより頑丈なあるいはより操作性の速いタイプを選ぶことができます。



MP 巻き戻しクラंक、  
ナパレザー、  
レーシンググリーン

M7  
カーフレザー・レッド、  
ロゴ入り



MP 巻き戻しノブ、ブラッ  
ク・クローム仕上げ、  
MPレザー

M7 ヴァルカナイト、  
ロゴなし





また、サインや図や紋章などの独自の刻印を施せば、あなたのライカは完全にオリジナルなものになります。組み合わせパターンは4000種類以上。変わった要望にもお応えできます。あなたの夢を現実のものに。一風変わったスタイルがいか、それとも控え目な外観を希望するか。自分に最も合うのはどんな組み合わせか。プロの写真家であってもコレクターであっても、ここできっと理想のカメラが見つかるはずです。ライカ取扱店で、個々の部品を見て、触れて、感じて、そして選んでください。ライカホームページのアラカルトお試しサイト [www.leica-a-la-carte.com](http://www.leica-a-la-carte.com)で、いろいろな組み合わせを試すこともできます。

#### ブライトフレーム



28mm



50mm

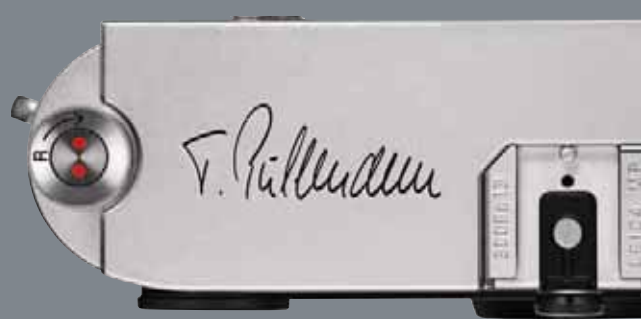


90mm

M7 M3と同様の刻印入り、ブラック・ペイント仕上げ



MP 注文者オリジナルの刻印入り、シルバー・クローム仕上げ





始めるなら今：ライカM7 標準セット 魅力あふれるセットが、選択の悩みを解消し、あなたをプロ仕様のライカワールドにご招待します。このセットに含まれるブラック・クローム仕上げのライカM7とライカ ズミクロン M f2/50mmなら、M型の世界に気軽に最初の一步を踏み出すことができます。あなただけのために作られた最初の1台。

—— ライカM7と 標準的な焦点距離をもつ  
明るいレンズ、ライカズミクロンM f2/50mm  
は、あらゆる場所で使える組み合わせです。  
レンズの特徴は、絞り開放でも驚くべき高  
画質が実現できること。この小型で手頃な  
セットは、どんな状況下でも頼りになる相  
棒です。経済的なライカM7標準セットのお  
求めは、お近くのライカ取扱店まで。



ライカMレンズは、多くのプロ写真家たちから世界一と評されており、その驚くほど小型のフォルムで撮影者を魅了しています。その設計は、一貫して、寸法を最小限に抑えつつ絞り開放でも最大の光学性能を実現するという基本原則を踏襲しています。このため、撮影者は絞り開放で自由にフォーカシングすることができ、クリエイティブな撮影が可能です。ライカのレンズは比較的単純な経路で光を通します。このためには、扱いが難しく他メーカーが尻込みするような特殊なタイプのガラスが必要になることが多いのですが、ライカでは特別に努力を重ね、わずか数枚のレンズエレメントの小型軽量レンズの製造に成功しました。解像度が高く補正レベルも桁外れに高いため、1954年以降に製造されたほとんどすべてのライカMレンズ、特に最近のレンズは、デジタルカメラでの使用にも適したものとなっています。レンズはひとつひとつ、研削を施され、入念に磨き上げられています。フォーカスリングのヘリコイドは、何度も手で触れて手作業で研削されており、-20 から +60 の範囲なら、バックラッシュのない驚くほど滑らかなフォーカシングが可能です。また、ライカは数十年にわたって専門知識を積み重ねてきました。ハイテクコーティングシステム、非球面技術 (ASPH.)、アポクロマト補正 (APO) の採用は、ソルムスでのレンズ製造の極意のごく一部でしかありません。手作業によるレンズ位置等の調整により、四隅まできわめてシャープな写真が保証されます。また、徹底的な最終検査により抜群の品質が確認されます。これらはすべてのライカMレンズに適用されるプロセスでライカのクオリティの根拠でもあります。

#### —— 非球面レンズ (ASPH.)

ライカのレンズは、高画質を可能にする非球面レンズ (ASPH.) を採用しています。通常の球面レンズとは表面の形状が異なり、製造にはきわめて費用がかかります。その代わり、最高の写真撮影が可能。なおかつコンパクトに仕上がります。



#### —— アポクロマト補正 (APO)

ライカは、望遠レンズにアポクロマト補正を施し、被写体のすべての色が焦点の同じ位置にそのまま再現されるようにしています。このため、絞り開放の状態でも、画像全体を鮮明に写し出すことが可能です。



## 広角レンズ

新登場 ライカ トリ・エルマー-M  
f4/16-18-21mm ASPH.

超広角レンズが初めて、16、18、21mmの究極の焦点距離をカバー。16mm使用時にも歪みが最小限に抑えられているため、注文の厳しい建築写真にも最適です。M8装着時には、非常に広角の遠近感を持つ21-28mmのレンズとして機能。2枚の非球面レンズを採用しているため驚くほどコンパクト。

同時にフローティングエレメントの原理を用いるインナーフォーカス方式を採用し、近接撮影時の画質向上を実現しています。近接撮影のための被写界深度は0.33mからと秀逸。M型の標準広角用ファインダーとのセットは経済的です。

ライカ エルマリットM  
f2.8/21mm ASPH.

絞り開放でも、すみずみまでシャープで歪みも最小限。前景が印象的で、後景に奥行きがあり、彼方に地平線が広がるようなドラマティックな効果を狙った写真に最適です。



ライカ ズミルックスM  
f1.4/35mm ASPH.

非常にコンパクトで明るい広角レンズ。高コントラストに再現でき、絞り開放でも高画質を実現できます。35mmのコンパクトレンズの中では傑出した存在です。

ライカ ズミクロンM  
f2/35mm ASPH.

どのフォーカス範囲でも、シャープさ、コントラスト、解像度のすべてにおいて秀逸。明るい広角レンズとしては世界最高クラスの、守備範囲の広いオールラウンダーです。シルバー・クローム仕上げもあります。



<b>ライカ エルマリートM f2.8/24mm ASPH.</b>	<b>ライカ ズミクロンM f2/28mm</b>	<b>新登場 ライカ エルマリートM f2.8/28mm ASPH.</b>
背景の中で被写体を際立たせるダイナミックな撮影に最高のレンズ。絞り開放でもきわめて高コントラスト。近接撮影時にも明るさと立体感は抜群です。	きわめて明るい広角レンズ。自然光撮影や報道写真撮影で威力を発揮します。絞り開放でも、高コントラストで妥協のない高画質を実現します。	M型レンズとしては最もコンパクトな明るい広角レンズです。非球面レンズの採用により、わずか180gで最適の画質を実現。0.7mからの近接撮影時にも、歪みはほぼゼロです。M8装着時には、35mmレンズと同等の写真が得られるため、報道写真には理想的なレンズといえます。

## Mレンズのネーミング

### —— エルマーM

経済的な選択肢。深い被写界深度が許される、あるいはその方が望ましい撮影用途に最適のレンズです。絞り開放値はf4で、これはわずかなレンズエレメントしか必要ないことを意味します。したがってすべてのライカMレンズの中でもっとも小型で、しかも完璧な画質が得られます。「コンパクト」を具現化したレンズがトリ・エルマーMで、小型のレンズボディながら3種類の実用的な固定焦点距離をカバーしています。

### —— エルマリートM

開放f値2.8の万能レンズ。この絞り値はライカ エルマリートM f2.8/21mm ASPH.などの広角レンズに最適です。f値は2.8ながら、努力の結果小型の寸法を維持。サイズ、重量、性能を考慮すれば、このタイプのレンズは、高画質と明るさが必要な場合の一般的な選択肢といえます。

### —— ズミクロンM

開放f値2の明るいレンズ。ズミクロンMシリーズは、自然光撮影や人物写真撮影に最適です。光学性能がずば抜けているため、フォーカスをコントロールし、独創性溢れる写真を撮ることが可能。厳しい照明条件下での撮影に理想的なレンズです。

### —— ズミルックスM

開放f値1.4のレンズの王様。このシリーズのレンズは、最高の照明条件下で最高の光学性能を必要とする撮影に最適です。ズミルックスM f1.4/75mmは、被写界深度が浅く被写体を背景から「切り離す」必要がある人物写真に最適のレンズです。35mmと50mmのレンズは、報道写真家のツール。その性能はそれぞれの焦点距離のレンズの基準となります。



## 標準レンズ

ライカ ノクティルックスM  
f1/50mm

光量の少ない場所でも見事な写真が撮れる、明るさ抜群のレンズ。絞り開放で被写界深度を非常に浅くすれば、人物写真など、ぼかした後景の中で細部までクリアに前景を引き立たせる描写が可能。絞り開放でもフレアに悩まされることはまずありません。微細なきめまで明瞭に写し出します。

ライカ ズミルックスM  
f1.4/50mm ASPH.

この新しいレンズなら、絞り開放で限界にまで迫った近接撮影でも、高コントラストでディテールまで鮮明な写真を撮ることが可能。その秘密は、ライカM型で初めて採用されたフローティングエレメントにあります。この機構のおかげで、表現力豊かな自然光撮影にうってつけのレンズに仕上がりました。シルバー・クローム仕上げもあり。

ライカ ズミクロンM  
f2/50mm

この手軽な万能レンズが明るい標準焦点距離のレンズの中でも屈指のものであることは間違いありません。絞り開放でも抜群の高画質を生み出します。シルバー・クローム仕上げもあり。



## 望遠レンズ

ライカ ズミルックスM  
f1.4/75mm

75mmという焦点距離にして抜群の明るさ。自然光撮影に最適で、人物写真にも報道写真にも、あるいはコンサートや劇場などで明るさの差が激しい場面にも威力を発揮します。

ライカ アポ・ズミクロンM  
f2/75mm ASPH.

コンパクトでさまざまな用途に使えるレンズ。自然な遠近感の表現にディテールまでリアルな描写、近接撮影に望遠撮影、絞り開放に絞り込み、とどんな条件でも高い画質が得られます。自然光を使った現実感のある人物撮影やディテールを強調する報道写真に最適です。

ライカ アポ・ズミクロンM  
f2/90mm ASPH.

このクラスの中では圧巻の性能を備えたレンズ。その明るさのゆえに、比較的速いシャッタースピードでの撮影（特に、遠くからのスナップ撮影時ブレ防止に有効）が可能です。





ライカ エルマー-M  
f2.8/50mm

明るさよりも軽さとコンパクトさで  
選びたい場合に最適の万能レンズ。  
薄型で便利、そして光学性能も優れ  
ています。シルバー・クローム仕上  
げもあり。



ライカ トリ・エルマー-M  
f4/28-35-50mm ASPH.

2枚の非球面レンズを採用し、最適  
な光学性能とM型の中で最もポピュ  
ラーな3種類の焦点距離を瞬時に切  
り換えられる便利なレンズ。その精  
確なメカニズムが、常に適切なフォー  
カシングを約束します。軽量かつ  
コンパクトなため、旅行にはうって  
つけです。



ライカ エルマリットM  
f2.8/90mm

絞り開放でも高コントラストで鮮明  
な写真が得られるため、この重量わ  
ずか400gのコンパクトでオールマ  
イティなレンズは、旅行の携行品と  
して最適です。シルバー・クローム  
仕上げもあり。



ライカ アポ・テリットM  
f3.4/135mm

ライカが誇る至高のアポクロマート  
性能を搭載した、折り紙つきの望遠  
レンズ。どの絞り設定でも、最高の  
解像度、コントラスト、シャープさ  
が得られます。手軽で軽量で使いや  
すい点もこのレンズの利点です。ラ  
イカM8では焦点距離が180mm相当  
となるため、使用はお控えください。



#### マクロレンズ

ライカ マクロ・エルマー-M  
f4/90mm

ライカ マクロ・アダプターMとの併用  
により、最大倍率1:3のマクロ撮影が  
可能。アダプターを使用しない場合は、  
コンパクトな90mmの望遠レンズとし  
て活用できます。沈胴させれば、  
50mmレンズほどのコンパクトさ。活  
躍範囲が広いと、特に旅行での写真  
撮影にはぴったりです。シルバー・ク  
ローム仕上げもあり。

# アクセサリ

カメラと見事に調和するアクセサリを装備すれば、ライカMで撮る楽しみがふくらみます。



**速写ケースM8** バヨネットマウントからの長さが70mm、径60mmまでのレンズを装着したM8を収納できます。下部が回転して開くようになっているので、短時間で簡単に、ベースプレートからのバッテリーやメモリーカードの交換ができます。ディスプレイ部分は保護用緩衝材付き。ナバカーフレザー製 ブラック コード番号：14872 M8



**速写ケースM ライカ アラカルト用** ライカ アラカルトで選べるレザーと同じ材質を使用したケース。オーダーしたカメラに合わせて選べます。装着したレンズとともにライカMPまたはM7を保護します。装着して収納できるレンズ：f2.8/21mm（レンズフード未装着時）f2.8/24mm（レンズフード未装着時）f2/28mm（レンズフード装着時・未装着時とも）f1.4/35mm（レンズフード未装着時）f2/35mm（レンズフード装着時・未装着時とも）f2.8/50mm（伸張時）f1.4/50mm、f2/50mm、f4/90mm（沈胴時）。

天然なめし革・コニャック：コード番号14857、  
ナバレザー・レーシンググリーン：コード番号14858  
ボックスカーフレザー・レッド：コード番号14859、  
カーフレザー・ダークブラウン：コード番号14860  
リザード風レザー・ブラック：コード番号14861、  
オストリッチ風レザー・ブラック：コード番号14862  
オストリッチ風レザー・チェストナッツ：コード番号14863、  
ナバレザー・ボルドー：コード番号14864  
カーフレザー・ブルー：コード番号14865 M7 MP



**速写ケースM スタンダード** ライカメーター、ライカモーターM、ライカワインダーM装着時は収納できません。装着したレンズとともにMカメラを収納できます。装着して収納できるレンズ：f2.8/21mm（レンズフード未装着時）f2.8/24mm（レンズフード未装着時）f2/28mm（レンズフード未装着時）f1.4/35mm（レンズフード未装着時）f2/35mm（レンズフード装着時・未装着時とも）f2.8/50mm（伸張時）f1.4/50mm、f2/50mm、f4/90mm（沈胴時）。  
ナバカーフレザー・ブラック：コード番号14870 M7 MP

**速写ケースM ロングノーズ** ライカメーター、ライカモーターM、ライカワインダーM装着時は収納できません。装着したレンズとともにMカメラを収納できます。装着して収納できるレンズ：f2.8/21mm（レンズフード装着時・未装着時とも）f2.8/24mm（レンズフード装着時・未装着時とも）f2/28mm（レンズフード装着時・未装着時とも）f1.4/35mm（レンズフード装着時・未装着時とも）f2/35mm（レンズフード装着時・未装着時とも）f2.8/50mm（伸張時）f1.4/50mm、f2/50mm、f1.4/75mm、f2/75mm、f4/28-35-50mm、f2/90mm、f2.8/90mm、f4/90mm（伸張時）。  
ナバカーフレザー・ブラック：コード番号14871 M7 MP



**ネオブレンケースM** カラーはブラック。ハンドストラップ付き。速写ケースとしても緊急時のベースとしてもお使いいただけます。カメラを確実に保護。実用的なベルクロとメモリーカード用のスペース（2箇所）付き。ショートノーズのケースは、レンズ長60mm、径65mmまでのレンズを装着したMカメラを収納できます。 **コード番号 14867**

ロングノーズのケースは、レンズ長80mm、径65mmまでのレンズを装着したMカメラを収納できます。

**コード番号 14868** M8 M7 MP



**コンビネーションバッグ“ピリンガム”** ライカM機材用のもっとも柔軟性のあるカメラバッグ。Mカメラ2台とレンズ2本、またはMカメラ1台とレンズ3本まで収納できます。大型レンズも、ライカビットMやライカモーターMを装着したままでも、すっきりコンパクトに持ち運びが可能。ジッパーポケット部分には、ライカSF24Dフラッシュユニットやフィルムなどのアクセサリも収納できます。防水キャンバス地。

ブラック： **コード番号 14854**、カーキ： **コード番号 14855** M8 M7 MP



**速写ケースMP ライカビットM装着時用** 巻き戻しクラックを装着したMPとライカビットMを装着したその他のアナログMカメラ用のケース。丈夫なサドルレザー製： **コード番号 14856** MP



**M8用プロテクター** 厳しい条件のもとでカメラのボディを保護し同時にカメラ収納時の扱いやすさを改善。M8の2.5型モニター用に空き部分を設けています。

ナバカーフレザー製：ブラック **コード番号 14869** M8

**キャリング・ストラップ** ライカ アラカルト用 トラディショナルな細いストラップ。ライカ アラカルトで選べるレザーと同じ材質を使用。オーダーしたカメラに合わせて選べます。  
サドルレザー・ブラック：コード番号14453、  
天然なめし革・コニャック：コード番号14454  
ナバレザー・レーシンググリーン：コード番号14456、  
ボックスカーフレザー・レッド：コード番号14457  
カーフレザー・ダークブラウン：コード番号14458、  
リザード風レザー・ブラック：コード番号14465  
オストリッチ風レザー・ブラック：コード番号14466、  
オストリッチ風レザー・チェストナッツ：コード番号14467  
ナバレザー・ボルドー：コード番号14468、  
カーフレザー・ブルー：コード番号14469

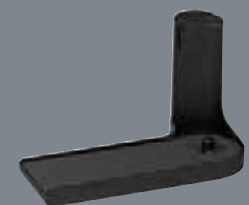


**ワイドキャリング・ストラップ** ブラックのサドルレザー製。ネック部分が幅広く快適にカメラの持ち運びができます。スリップ防止のため内側にはきめ細かなベルベットを使用。  
コード番号14455



**M8用ハンドグリップ** 長時間の撮影、または重量のある明るいレンズ装着時にも、楽に撮影ができます。シルバー：コード番号14472、ブラック：コード番号14471

M8



**ハンドグリップM** どのアナログカメラでも安定させてしっかり固定（M5には使用できません）。中央の三脚ねじ穴に取り付けます。コード番号14405

M7 MP



**ライカビットM** マニュアル操作でスピーディなフィルム送りが可能な機械式ワインダー。ベースプレートを外して底に取り付けるだけのアナログM型カメラ用アクセサリ。ライカMP、M7、M6TTLに装着が可能。ブラック・ペイント：コード番号14009、ブラック・クローム仕上げ：コード番号14450、シルバー・クローム仕上げ：コード番号14008

M7 MP



**ライカモーターM** コンパクトで使いやすい、電池式のモータードライブ（アナログM型カメラ用）。  
**装着方法**：ベースプレートを外し、カメラと機械的に結合。**巻き上げ速度**：1.5コマ/秒または3コマ/秒。**シャッターレリーズ**：カメラ本体のシャッターレリーズを使用。**モーター**：特製DCモーターと超低ノイズの摩擦駆動。巻き上げ速度1.5コマ/秒ではさらにノイズが低減。**電源**：3Vリチウム電池（123A）×2本。人間工学に基づく設計のグリップ部分に収納。**電池寿命**：気温20℃で36枚撮り×100本以上（ライカ試験条件による）。**ハウジング材質**：ガラスファイバー強化材、真鍮（カメラ接触部）、アルミニウム（電池収納部）、スチール（本体）。**三脚用ねじ穴**：A 1/4 × 20。レンズ軸の下、中央部。  
**寸法（W×H×D）**：138mm×78mm（ハンドグリップ部）×55mm。**質量**：約225g（電池を含まず）。  
**コード番号14408**（アタッチメント付きレンズを装着した場合には使用できません）

M7 MP



**巻き戻しクランク** 巻き戻しノブに取り付けると、すばやく簡単な巻き戻しが可能なアクセサリ（M7ではライカ アラカルトで巻き戻しノブ仕様を選択できます）。ブラックとシルバーの2種類があり、小ネジで巻き戻しノブに取り付けます。取り付け用小型ドライバー付き。シルバー：コード番号 14437、ブラック：コード番号14438

M7 MP

**ユニバーサル広角ビューファインダーM** この性能で、広く互換性のあるコンパクトなビューファインダーを提供できるのは、ライカだけです。このファインダーがあれば、新登場のライカ トリ・エルマーM f4/16-18-21mm ASPH.をアナログモデル（M7・MP）やデジタルM8に装着し、焦点距離を拡大することができます。また、M型の5種類の焦点距離（16、18、21、24、28mm）について、正確にフレーミングを決定することも可能。パララックス補正機能により、撮影距離に合わせてフレーミングを行なえます。非球面レンズを採用しレンズにはアポクロマート補正を施しているため、迷光の影響を最低限に抑えつつ高解像度で鮮やかな画像を実現。カメラの水平を保つためアルコール水準器を内蔵。視度補正レンズ（オプション）を装着して、-3から+3の範囲で視度の補正も可能です。**コード番号12011**

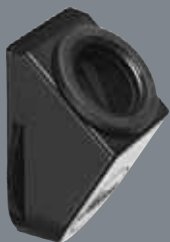
M8 M7 MP



**ビューファインダー 21/24/28mmレンズ用** 21mm、24mm、28mmの広角レンズでのフレーミングを可能にします。アイピースに視度補正レンズを装着すれば、眼鏡なしでの撮影も可能。レザーポーチ付き。ブラック・クローム仕上げ：**コード番号12013**

M8 M7 MP





**アングルフインダーM** すべてのMカメラに取り付けが可能（1954年に製造された初期型のM3には使用できません）。Mシステムの使用範囲を広げる優れたものです。アングルフインダーには、ファインダー中心の直径およそ8.7mmの円内に映る正立正像が表示されます。45°の角度に取り付けられ、自由に回転させることもできるので、複写などカメラによって視界が遮られたくない場合でも、簡単に被写体を確認する事ができます。マクロ・エルマーM f1.4/90mmを使用して地面に近い被写体をマクロ撮影する際も、楽な姿勢で撮影できます。レザーポーチ付き。コード番号12531 M8 M7 MP

**ライカ ビューファインダー・マグニファイアーM 1.25倍** 焦点距離が50mmを超えるレンズを使用する場合に、フレーミングが格段に容易になります。特にM型の75mmから135mmの望遠レンズでは、ファインダーに映る画像が大きく拡大され抜群に見やすくなるので、適切な撮影範囲内で被写体の細部まで確認することが可能です。レザーポーチと固定チェーン付き。

コード番号12004 M8 M7 MP



**視度補正レンズM** ファインダーのアイピースに装着すれば、眼鏡なしでの撮影が可能に。

+0.5 : コード番号14350、+1.0 : コード番号14351、+1.5 : コード番号14352、+2.0 : コード番号14353、+3.0 : コード番号14354、-0.5 : コード番号14355、-1.0 : コード番号14356、-1.5 : コード番号14357、-2.0 : コード番号14358、-3.0 : コード番号14359 M8 M7 MP



**ライカ マクロ・アダプターM** マクロ・エルマーM f4/90mm用のアクセサリ。本来の撮影距離0.77m（1:6.7）を最短撮影距離0.5m（1:3）まで拡大することができます。最小撮影範囲は72 x 108mmになります。レンジファインダーを通して見える被写体は、このアダプターを経てカメラに映し出されます。また、パララックスは、カメラのファインダー機構によって補正されます。カメラ本体に取り付けたあと、レンズは上下反対になるように取り付けます。こうすることで、レンズ裏側に表示されているマクロ撮影用の距離指標と被写界深度目盛が確認できます。ブラックアルミ仕上げ コード番号14409 M8 M7 MP

**レンズキャリアーM** 2本目のレンズが同時に携帯できるようになるので、機材一式をコンパクトにまとめた感覚で持ち歩くことが可能。ベースプレートに取り付けます。コード番号14404 M7 MP



**フラッシュユニット ライカSF 24D** 2種類のディフューザー（広角用と望遠用）とベルベット製のポーチ付き。  
**接続：**中央接点付きホットシューに接続。TTL測光（M7およびM6 TTL）、絞り優先AEモード（中央接点付きのR型およびM型の全機種）の使用が可能。中央接点のないカメラには標準のアダプターケーブルを用いての接続も可能。  
 /GNC（ガイドナンバー制御）機能付きのカメラ（CM、CMズーム、デジルックス2）はGNCを使用して接続。  
**ガイドナンバー：**24（85mmの望遠用ディフューザー使用時）。**機能：**±3ステップの露出補正が可能。照射角は35mm、24mm（広角用ディフューザー使用時）、85mm（望遠用ディフューザー使用時）の画角に対応。Aモードで6段階（f2.0、f2.8、f4.0、f5.6、f8、f11）の自動光量レベル切り替え。**ディスプレイ：**すべての設定と補正を液晶ディスプレイに表示。R8、R9、M7、M6 TTLのファインダーおよびフラッシュユニット本体に、フラッシュ確認ランプを表示。**フィルム感度：**ISO 12/12°～ISO 3200/36°（M、TTL、GNC）、ISO 25/15°～ISO 800/30°（Aモード）。**電源：**3Vリチウム電池（123A）× 2本、素早い連続露出が可能。寸法（W x H x D）：66mm x 109mm x 40mm。**質量：**約180g（電池を含まず）。**コード番号14444** M8 M7 MP

**ケーブルリリース 50cm** 取り付け用ねじ付き。  
**コード番号14076** M8 M7 MP



**卓上三脚** 脚部は折りたたみ可能。ねじ穴A 1/4 DIN4503 (1/4インチ)  
**コード番号14100** M8 M7 MP



**自由雲台**  
 ねじ穴A 1/4 DIN4503 (1/4インチ)  
**コード番号14110** M8 M7 MP



**リチウムイオンバッテリーM8** M8の特殊機能用に設計された、高性能の充電式リチウムイオンバッテリー。関連する電池データ（温度や残量など）はつねにモニターされ、便利で信頼できる動作が保証されます。ショートによるダメージ防止機構付き。定格電圧：3.7V 容量：1900 mAh **コード番号14464** M8

**バッテリーチャージャーM8** リチウムイオンバッテリーチャージャー。互換性のあるコネクターシステム採用のため、ほぼすべての国で、車内（12V - 24V車）でも100V - 240Vの電源でも使用可能。特殊なインターフェースを介して充電中の電池の情報を取得し、状態の変化を検知します。完全に放電した電池は、パルス充電により再活性化され電池容量がなくなることはありません。温度監視やパルス式フロート充電は、リチウムイオンバッテリーのバッテリー容量を維持するために用いられる手段の一部です。

**コード番号14463** M8

# ライカM8    テクニカルデータ



モデル	ライカM8	シルバー	ブラック
コード番号		10 702	10 701
型式	ライカMレンズ対応のプロ仕様コンパクトデジタルレンジファインダーカメラ 電子制御式縦走りメタルブレード・フォーカルプレーンシャッター		
撮影素子	Mレンズの要求基準に合わせた特別仕様のノイズの少ないCCDセンサーを搭載。有効画素数：1030万画素。 サイズ：18mm x 27mm。レンズ焦点距離は35mm判換算で1.33倍相当。アスペクト比は3:2。モアレフィルタ不採用により レンズの光学性能を完全利用。モアレの検知と除去はデジタル信号プロセッサによる。		
センサー感度範囲	マニュアル設定   ISO 160 – ISO 2500		
ファインダー	<b>方式</b> ：自動バラックス補正機能付きの明るい大型のブライトフレームファインダー/レンジファインダー。 光の状態にかかわらず全ブライトフレームを最適な状態で視認できるファインダーレンズを搭載。 <b>アイピース</b> ：ファインダー視 度は-0.5   dpt。視度補正レンズ (-3 ~ +3   dpt) 装着可能。 <b>イメージフィールド</b> ：ブライトフレームは2フレームを1組で表示 (24mmと35mm、28mmと90mm、50mmと75mm)。レンズ装着時に自動表示。 <b>イメージフィールドセクター</b> により各組を マニュアルでも表示できるため、異なる焦点距離を事前確認することが可能。 <b>バラックス補正</b> ：ファインダーとレンズの水平 および垂直方向の差異を設定距離に応じて自動補正。つまり、ブライトフレームのとらえる範囲とレンズのとらえる範囲が自動 的に一致。倍率：0.68倍 (すべてのレンズ) <b>基線長の長いファインダー</b> ：スプリットイメージ式および二重像合致式ファイン ダー。ファインダー中央部に明るい領域として表示。有効基線長47.1mm (距離計基線長69.25mm x   ファインダー倍率0.68 倍)。		
レンズ	<b>レンズの装着</b> ：6ビットコード付きレンズ識別用の光学スキャン装置を内蔵したライカMバヨネットマウント方式。 <b>レンズシステム</b> ：6ビットコード付きの現行ライカM型レンズ (焦点距離：16 - 90mm)。1954年以降製造のほとんどのM型レ ンズ (焦点距離：21 - 90mm) は6ビットコードがなくても使用可能。ほぼすべてのレンズは、6ビットコード付きへの改造が 可能。 <b>6ビットコードの機能</b> ：システムカメラ特有の口径食をレンズ情報処理にて低減。レンズ情報とともに画像データを識別 できるため、デジタルデータの保存も簡略化。電動ズームフラッシュユニットに合わせてフラッシュリフレクターを調整。絞り 優先AEモード時オートスローシンクロ機能に連動。		
露出制御	<b>自動モード (オート)</b> ：手動操作による絞り値設定時、適正なシャッタースピードを自動的に決定 (ファインダー内に表示)。 <b>マニュアル露出設定</b> ：シャッタースピードと絞り値を個々に設定。カメラの露出値はファインダー内のLED表示により確認。		
撮影モード	<b>S</b> ：シングル撮影モード。シャッターリリースボタンを押すと1回リリース。 <b>C</b> ：連続撮影モード。秒間2コマ10枚を連続撮影。 <b>タイマー撮影モード</b> ：2秒または12秒。ファインダー窓に撮影までの時間をLED表示。		
制御部/ ディスプレイ	<b>前面</b> ：レンズ着脱ボタン、イメージセクターレバー <b>上面</b> ：メインスイッチおよびシャッターリリースボタン、シャッタースピード設定ダイヤル、LCDステータス表示 (撮影可能残 り枚数および電池の残量を表示) <b>背面</b> ：2.5型カラーモニター、メニュー設定および4段階の設定ダイヤル (メニュー移動および画像内容設定用の4方向ボタン付 き)、MENU、PLAY、DELETE、PROTECT、INFOの各ボタン <b>底面</b> ：ロック式のベースプレートがバッテリーとSDメモリーカードを湿気や埃から保護。		
カラーモニター	画像表示およびメニュー操作用の2.5型の高輝度LCDモニター (解像度23万画素)。5段階の輝度調節。 撮影後の画像制御オプション：RGB階調値ヒストグラムを用いて、輝度の分布により全体的な露出状態を評価設定した画質バラ メーターおよび焦点距離を表示 (現行の6ビットコード付きレンズ装着時)。画像表示サイズ：サムネイル形式は9分割および4 分割、フルサイズ、100%まで4段階の拡大表示可能。		
画像パラメーターメニュー/ メインメニュー	SETボタンを押すことにより、以下の画像パラメーターの変更/設定が可能：ユーザープロファイル、センサー感度、マニュアル 露出補正、ホワイトバランス、圧縮、画像解像度。メインメニュー：メニューボタンを押すことにより、 <b>メインメニュー</b> でモニター のコントラストや色空間などの設定が可能。 <b>メニュー言語</b> ：ドイツ語、英語、フランス語、スペイン語、日本語、中国語。		
画像解像度	DNG：3916 x 2634 (1031万)画素、JPG：3936 x 2630 (1035万)画素、2952 x 1972 (580万)画素、 1968 x 1315 (260万)画素、1312 x 876 (115万)画素。		
データフォーマット	DNG™ ( Digital Negative Format )。2段階のJPEG高圧縮。 <b>DNG™ファイル情報</b> ：16ビットカラー、ファイルサイズは1画像あたり10.2MB。		
記憶媒体	4GBまでのSDカード。 ライカM8に使用可能なSDカードについては下記URLのリストを参照： <a href="http://www.leica-camera.us/photography/m_system/m8">www.leica-camera.us/photography/m_system/m8</a>		
ホワイトバランス	自動、プリセット ( 6種類 )   マニュアル設定、色温度設定 ( 2,000K ~ 13,100K )		





## ライカM7/ライカMP テクニカルデータ



モデル	ライカM7	シルバー	ブラック	ライカ MP	シルバー	ブラック
コード番号		10 503	10 504		10 301	10 302
型式	電子制御式シャッターおよび機械制御式シャッター (シャッタースピード2種類) 搭載35mm コンパクトレンジファインダーカメラ			機械制御式シャッター搭載 35mm コンパクトレンジファインダーカメラ		
レンズ	ライカM型バヨネットマウント方式 使用レンズ: ライカM型レンズ 焦点距離21 ~ 135mm					
ファインダー	方式: 自動バラックス補正機能付きの明るい大型のブライトフレームファインダー。迷光の影響を低減した高視認性のファインダー光学系を全ブライトフレームに採用。アイピース: ファインダー視度は-0.5 dpt。視度補正レンズ (-3 ~ +3 dpt) 装着可能。ブライトフレームは2フレームを1組で表示 (28mmと90mm、35mmと135mm、50mmと75mm)。レンズ装着時に自動表示。セレクトアーレバーによる表示も可能。ライカ アラカルトにて上記以外のブライトフレームの組み合わせが選択可能*。バラックス補正: ファインダーとレンズの水平および垂直方向のバラックスを設定距離に応じて自動補正。つまり、ブライトフレームのとらえる範囲とレンズのとらえる範囲が自動的に一致。ファインダーと撮影範囲の関係: 各焦点距離において最短撮影距離を設定した場合、約23 x 35mmのブライトフレームが撮影範囲に相当。無限大 ( ) に設定した場合、各焦点距離に基づき、各ブライトフレームより9% (28mmの場合) ~ 23% (135mmの場合) 広い範囲が撮影範囲に相当。倍率: 0.72倍 (すべてのレンズ)。ライカ アラカルトにて0.85倍および0.58倍が選択可能*。基線長の長いファインダー: スプリットイメージ式および二重像合致式ファインダー。ファインダー中央部に明るい領域として表示。有効基線長49.9mm (距離計基線長69.25mm x ファインダー倍率0.72倍)。ライカ アラカルトで倍率0.85倍および0.58倍を選択した場合の有効基線長は、それぞれ58.9mm (距離計基線長69.25mm x 倍率0.85倍) と40.2mm (距離計基線長69.25mm x 倍率0.58倍)。					
測光	TTL測光方式 (レンズを通る光を測光)。測光方法: 先幕中央の測光部に反射した光を測光。側光部の直径は12mm (面積はファインダー画面の13%、直径はファインダー内に表示されるブライトフレームの短辺の約2/3に相当)。側光範囲: 0.03 ~ 125000 cd/m <sup>2</sup> (ISO 100、f1.0、常温常湿)。-2 ~ 20EV またはf1で4秒 (MPではB設定) ~ f32で1/1000秒に相当。側光値が側光範囲に満たない場合はファインダー内で左三角形のLEDが点滅。側光素子: バヨネット背部左上のシリコンフォトダイオードと集光レンズ。					
露出制御	シャッタースピードの自動制御 (ファインダー内でLEDデジタル表示) 手動操作による絞り値設定 (オートモード)。またはマニュアル操作によるシャッタースピードおよび絞り値の設定 (露出値はLED表示で確認)。			マニュアル操作によるシャッタースピードおよび絞り値の設定 (必要な露出値はLED表示で確認)。		
フィルム感度設定	自動設定 (ISO 25 ~ ISO 5000、DX方式) またはマニュアル設定 (ISO 6 ~ ISO 6400)。露出補正 (± 2EV) によりISO 1.5 ~ ISO 25000の範囲でも設定可能。			マニュアル設定 (ISO 6 ~ ISO 6400)		
ファインダー表示	LEDアイコンでフラッシュの状態を表示: 4桁7セグメントLED表示 (上下にドット表示付き、明るさは周囲の明るさに応じて変化)。表示される状況: フィルム感度、露出補正警告、シャッタースピード設定値 (AUTOモード時)、AEロック、測光量が測光範囲を超えた場合または測光範囲に満たない場合の警告表示 (AUTOモード時)、シャッタースピードが2秒より遅い場合の進行状況。			LEDアイコンで電池残量を表示。		
	1つの円とその両側に位置する2つの三角形のLEDによる露出バランス表示 (M7はマニュアル設定時のみ) ▶ 露出アンダー (1ステップ以上足りない) ▶● 露出アンダー (1/2ステップ足りない) ● 適正露出 ●◐ 露出オーバー (1/2ステップ多い) ◐ 露出オーバー (1ステップ以上多い) 三角形のLED表示を確認することにより、絞りリングによる露出調整が可能。またはシャッタースピードダイヤルによる露出調整も可能。測光量が測光範囲を超えた場合または測光範囲に満たない場合はLEDが点滅警告。					

モデル	ライカM7	シルバー	ブラック	ライカ MP	シルバー	ブラック
コード番号		10 503	10 504		10 301	10 302
フラッシュの露出測定・制御						
フラッシュユニットの接続	中央接点付きのホットシューまたは標準のシンクロターミナルに接続					
フラッシュ同調速度	1/50秒。またはマニュアル設定によりこれより遅い速度に設定可能。 AUTOモードによる自動設定。マニュアル設定では、高速シンクロ対応のフラッシュユニットおよびSCA-3502アダプターとの併用により、これより速い速度（1/250秒、1/500秒、1/1000秒）に設定可能。					
シンクロのタイミング	先幕シンクロまたは後幕シンクロ（対応フラッシュユニット、SCA3502アダプター使用時）。			先幕シンクロ		
側光と側光方式	中央重点側光によるTTL制御（SCA-3501/3502アダプター使用時、またはライカSF 20やSF 24DなどのSCA-3000対応フラッシュユニット使用時）。			接続したフラッシュユニットによる自動制御、またはガイドナンバー計算にてマニュアル操作による制御。		
側光素子	バヨネット背部右下のシリコンフォトダイオードと集光レンズ				－	
TTLフラッシュ側光に対応するフィルム感度	ISO 12～ISO 3200				－	
フラッシュの露出補正	±3 1/3EVの範囲内で1/3ステップで補正（SCA3501/3502アダプター使用時）。				－	
	ライカSF 20/SF 24D装着時は、±3EVの範囲内で1/3ステップで補正					
フラッシュモードに関するビューファインダーの表示	充電完了：フラッシュのアイコンが常時点灯。フラッシュ終了確認：アイコンが点灯継続または露出後アイコンが短時間高速点滅。露出アンダー：一時的にアイコンが消灯。			ライカSF 20/SF 24D装着時は、±3EVの範囲内で1/3ステップで補正		
シャッターとシャッターレリーズ	－					
シャッター	横走り式ゴムコーティング布幕フォーカルプレーンシャッター。超静音設計。 電子制御式および機械制御式（シャッタースピードは1/60秒と1/125秒）					
シャッタースピード	AUTOモードでは32～1/1000秒まで無段階に設定。マニュアル設定時は4～1/1000秒 Bでは無制限の長時間露出が可能。1/50秒はフラッシュ同調速度			1～1/1000秒		
シャッターレリーズ	3段階：作動（自動モード時） AEロック、レリーズ ケーブルレリーズ用（ネジ穴付き）			2段階：作動（側光開始） レリーズ		
フィルム給送	フィルム装填：ベースプレートとリアパネルを開けて装填。巻き上げ：巻き上げレバーまたはライカビットMによる手動巻き上げ。あるいはライカモーターMによる自動巻き上げ。フィルム巻き戻し：本体正面の「R」レバーを回した後、巻き戻しノブ（MP）または巻き戻しクランク(M7)による手動巻き上げ。（MPではライカ アラカルトにて巻き戻しクランクが選択可能。アクセサリーの巻き戻しクランクも取り付け可能。）フィルムカウンター：本体上部。ベースプレート取り外しにより自動的にリセット。					
本体	材質：ハウジングは金属製。リアパネル開閉式。トップカバーとベースプレートは真鍮製。MP：シルバー・クローム仕上げまたはブラック・ペイント仕上げ。M7：シルバー・クロームまたはブラック・クローム仕上げ。ライカ アラカルトにて、仕上げも選択可能。三脚穴：A 1/4（1/4"）DIN ベースプレート下部にあり。					

ライカM7/ライカMP    テクニカルデータ



モデル	ライカM7	シルバー	ブラック	ライカ MP	シルバー	ブラック
コード番号		10 503	10 504		10 301	10 302
電源	6V。リチウム電池（DL 1/3N）× 2本。 電池残量はファインダーのディスプレイ上にLEDで表示 （点滅、LEDによる残量表示、「bc」表示、全LED消灯の4段階）。			3V。酸化銀ボタン電池（PX 76またはSR44）× 2個、あるいは リチウム電池（DL 1/3N）× 1本。電池残量はファインダーのデ ィスプレイ上にLEDで表示（電池残量警告点灯、露出バランス 用表示の消灯、全LED消灯の3段階）。電源は側光とディスプレ イ表示にのみ必要。		
寸法（幅×高さ×奥行き）	約138 x 79.5 x 38mm			約 138 x 77 x 38mm		
重量（電池含まず）	約610g			約585g		
付属品	すべり止めパッド付きキャリング・ストラップ（コード番号14312）、M/バヨネット用ボディキャップ（コード番号14195）、 シンクロ接点カバー（コード番号14348）、電池。					

\*ブライトフレームの組み合わせや各組み合わせで表示されるブライトフレーム（2フレームで1組）、ライカ アラカルトで選択可能なその他の装備については、弊社ホームページをご覧ください。www.leica-a-la-carte.com







**BRUCE GOLDEN** ( 1946年ニューヨーク市ブルックリン生まれ、ニューヨーク市在住 )

"Go"シリーズより 1995-2000年

マグナム・フォトの正会員でありながら、ブルース・ギルデンは、オーソドックスな報道写真家からはほど遠い存在です。ウィリアム・クラインやダイアン・アーバスがロールモデルなのかもしれません。ギルデンがレオン・レヴィンスタインからインスピレーションを受けたことは明白で、人間や風変わりな相貌への興味は彼の写真にも表れています。ギルデンは、毎日の都市生活の中に被写体を探し求め、時には自然光とフラッシュの光を組み合わせ、奇妙な状況のビジュアルの過激さをさらに高めようと試みます。1995年から2000年の間に日本で撮影された、小犯罪者、売春婦、暴力団員の写真のシリーズである"Go" ( "Leica World" 2001年2月号参照 ) は、彼のこれまでの同種の作品の中で最高の出来栄と言えるでしょう。

使用カメラ：ライカ M6 / 使用レンズ：ライカエルマリート M f2.8/28mm

ブルース・ギルデン氏/マグナム・フォト提供



**JEFF MERMELSTEIN** ( 1957年ニュージャージー州ニューブランズウィック生まれ、ニューヨーク市ブルックリン在住 ) "Side Walk"シリーズより 1987-1999年

1999年に、垂涎的であるヨーロッパ・パブリッシャーズ賞を受賞したジェフ・マーメルスタインは、ドキュメンタリー写真の新たな世代を代表する人物です。この世代は、単に現実を記録に残すだけでは満足しません。彼らは、明確で少なからず頑ななコンセプトを頭に描き、この分野の偉大な提唱者たちとは相容れない妥協を許さぬスタイルを貫いて、被写体をなるべくなら都市環境の中で探し求めようとします。マーメルスタインの場合、「偉大な提唱者」はレオン・レヴィンスタインやゲイリー・ウィノグラッドであったかもしれませんが。ただ、マーメルスタインはカラー写真にこだわり、日々の生活という舞台を、その喜劇と悲劇とともに断固として強調しようとした点が違っていました。その最新作"No title here" ( 2003年 ) の中では、彼は今一度毎日のシュールレアリズムの繊細な記録者となっています。

使用カメラ：ライカ M6 / 使用レンズ：ライカ ズミクロンM f2/35mm ASPH.

ジェフ・マーメルスタイン氏提供



**BERND ARNOLD** ( 1961年ケルン生まれ、ケルン在住 )

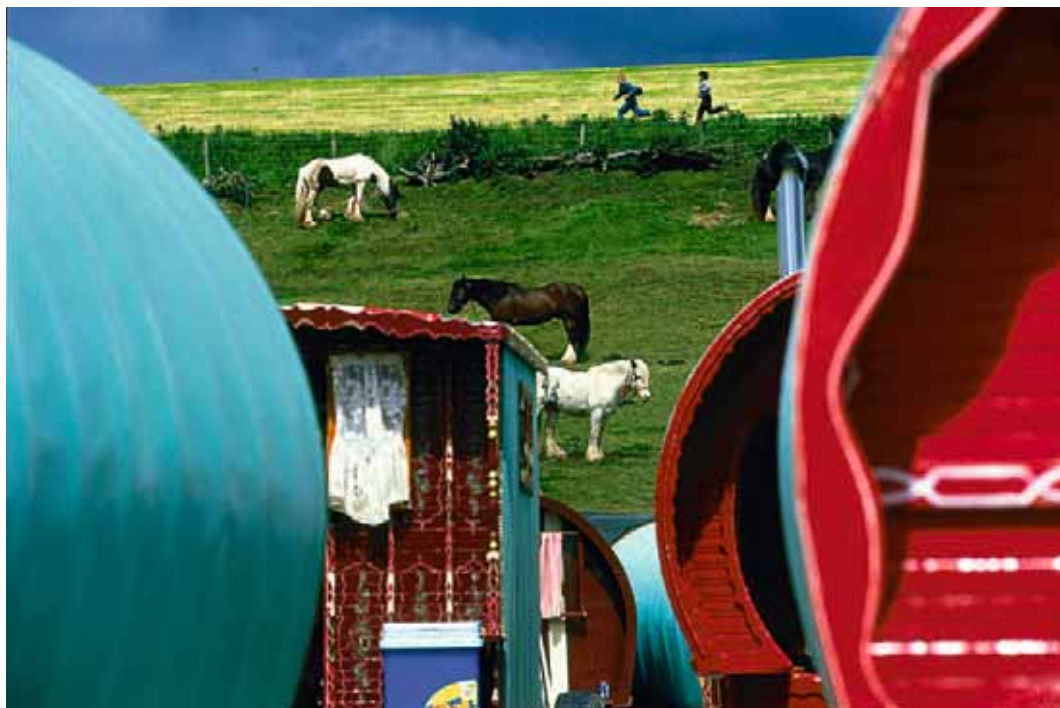
"Power and Ritual"シリーズより 1986-2004年

従来のアナログ写真撮影は、驚くべき正確さでビジュアルの世界の表層を記録するものであるとする見方は、純粹な物理的意味からすれば、間違いなく正しいものです。しかしながら、この言い方は、「行間を表現する」と主張する写真芸術の一分野の境界線を際立たせることはできません。これこそまさに、意図的なスペクタクルや仮面の着用がある程度必要条件である生活の撮影に専念する、ケルンに拠点を置く写真家ベルント・アルノルトが懸念することなのです。最初の興味の対象こそカトリック教会の儀式でしたが、アルノルトはすぐにその対象を政治やメディアの分野にまで拡大しました。そして、知性と雰囲気あふれるモノクロ写真を生み出すことで、今日のドキュメンタリー写真がいかに批判精神あふれるものになりうるかを実証したのです。

使用カメラ：ライカ M6 / 使用レンズ：ライカエルマリートM f2.8/28mm、ライカ ズミクロンM f2/35mm ASPH.

ベルント・アルノルト氏提供





**TOMASZ TOMASZEWSKI** ( 1953年ワルシャワ生まれ、ワルシャワ在住 )

"Gypsies - different people just like us"シリーズより 2000-2001年

このテーマは決して目新しいものではありません。ジョセフ・クーデルカ、リチャード・アヴニール、ジャンニ・ベレンゴ・ガルディンなどが、すでにジプシー、もっと正確にはロマニーの問題を詳しく扱った写真を撮っています。トマス・トマシェフスキを際立たせているのは、その作品がカラーであるということです。そして、ナショナル・ジオグラフィック誌の依頼を受け2000年に開始されたシリーズでは、この写真家の野心的な目標は、シンティ・ロマ人たちの世界的文化を捕らえ表現する以外の何ものでもありませんでした。トマシェフスキは「私の目標は、国を持たず、移住先で活気のある独特のコミュニティを形成しようとする人々の物語を、写真という形で表現することなのです」と言っています。

使用カメラ：ライカ M6、ライカ M7 / 使用レンズ：ライカ ズミクロン M f2/28mm ASPH.、ライカ ズミルックス M f1.4/35mm ASPH.、ライカ アポ・ズミクロン M f2/90mm ASPH.

トマス・トマシェフスキ氏提供







www.leica-camera.com

ライカは優れた光学性能と精密な機械技術、人間工学に基づいた使いやすさを備えた製品づくりを常に目指しています。また、優れた製品だけでなく、文化活動、写真コンテスト、ツアー、セミナー、技術サポートなど、さまざまなサービスをご提供しています。ライカについての詳しい情報は、ホームページをご覧ください。お近くのライカ製品取扱店までお問い合わせください。



**ライカMシステム** 光学系とメカニズム、どちらの品質にも妥協を許さず、写真撮影にふさわしい機能だけにこだわった、プロ仕様のレンジファインダー機。創造性を自由に発揮したいユーザーのために、アナログ機2モデル、デジタル機1モデル、コンパクトで大口径の高性能レンズ18種類をラインナップ。さまざまな分野の報道写真、人物写真、自然光撮影に理想的です。



**ライカRシステム** 高性能のレンズとライカ デジタル・モジュールRにより、アナログでもデジタルでも撮影がこなせる35mmカメラという世界初のシステムを実現したライカR9。直感的な操作性と優れた拡張性で価値も高いシステム。トップレベルの描写性能が味わえるだけでなく、創造性も自在に発揮することができます。



**ライカDシステム** 最新ながらもクラシック最端技術にライカならではの独特のフォルムと直感的な操作性を融合。ライカ デジルクス3が、ライカ初のデジタル撮影に特化した一眼レフシステムの歴史の礎を築いていきます。



**ライカコンパクトカメラ** C-LUX、D-LUX、V-LUXという顔ぶれのハンディなコンパクトカメラシリーズ。その光学性能、使いやすさ、シンプルなデザインで、ユーザーの心を魅了します。先進のデジタル技術と、アナログカメラをベースに試行を重ねたコンセプト。このふたつの組み合わせによって高い評価を得ています。



**ライカプロジェクター** スライドによるプレゼンテーションに理想的なソリューション、ライカ ブラドビット。圧倒的な鮮鋭度と、息を呑むほどの高精細さに、目利きのユーザーも納得すること間違いなしです。(国内未発売)



**ライカ双眼鏡・距離計** 自然観察やハンティングのための高性能な光学機器。苛酷な自然環境での使用でも自然な観察をしっかりとサポートするように設計されています。この画期的なシリーズは、厳しい条件が要求されるプロフェッショナルな用途にも最適です。



**ライカフィールドスコープ** はるか遠くの対象物のディテールを、鮮やかなコントラストとありのままに、感動的なまでに近づけて観察できる、高性能フィールドスコープ。多彩なバリエーションの10モデルに、アクセサリーのアイピースも充実。デジタルスコーピングにおいても、あらゆるニーズに応える画期的なソリューションをご提供します。



Trademarks of Leica Camera Group / "Leica" as well as product names = ®Registered trademark / © 2006 Leica Camera AG / Subject to modifications in design, specification and offer / Concept and design: Heine/Lenz/Zizka, Frankfurt am Main / Picture credits: Product photographs: Tom Vack, Alexander Göhr / Photography Leica à la carte production: Michael Agel / Portfolio Photography: Simon Wheatley (LEICA M8), Portfolio Leica M Photography "24x36": Ragnar Axelsson, Philippe Bordas, Matias Costa, Bruce Gilden, Andrea Hoyer, Jeff Mermelstein, Tomasz Tomaszewski, Alex Webb, Johan Willner / Brochure Order No : German 91272 / English 91273 / French 91274 / Italian 91300 / Dutch 91301 / Japanese 91302 / Turkish 91303 / Spanish 91304